

NLE Yokohama		Sakura6 Plus 取扱説明書-取付け編	Technical Catalog	
December 1, 2013			T 001 292 J	
CS SK	Ver. 11		Page	1 / 65

NLE

YOKOHAMA JAPAN

Nippon Lifts Engineering Inc.

新機能！
リダイヤル制限機能付き

遠隔監視装置
Sakura6 Plus

技術基準適合認定番号
A08-0133004

適用型番

DS6B-P-**L03	Sakura6 Plus PHSタイプ(主監視装置)
DS6B-M-**L03	Sakura6 Plus モデムタイプ(主監視装置)
DS6B-MM-BL03	マルチプレックス (従監視装置)
DS6B-BM-BL	ビルディングオプション (設備監視装置)

注) 型番の**L03は、附加装置(機能)を表す英字になります。

例: DS6B-P-ABL03PHS; 外部アンテナ; 電源付き; ロジック付改版03, ソフトVer

例: DS6B-MM-BL03マルチプレックス; バッテリー付き; ロジック付改版03, ソフトVer



注意

適用マニュアル

シリアル番号DS6B-1700以前の製品に付きましては、
Ver.09をご覧ください。

改版履歴(1/1)

Version	日付	作者	項目
00	2010/04/01	SK	Sakura6 Plus Ver00 pre release
01	2010/06/30	SK	一部記載変更、文章修正
02	2010/07/7	SK	現場向け表記に一部変更
03	2010/08/01	SK	外付けメンテナンススイッチ極性表記。P36Dip.S記載変更。P49リモートメンテナンスモード追記。
04	2010/09/13	SK	P42バッテリー注意書き追記。
05	2010/09/29	SK	ロジック機能追加
06	2010/10/12	SK	一部記載変更、文章修正
07	2011/07/01	SK	システム電源監視機能 追加
08	2011/09/28	SK	一部記載変更、文章修正
09	2011/11/1	SK	バッテリー電圧監視 回復機能説明追記
10	2012/10/1	SK	リダイヤル制限機能 プログラム追記。型式:L03変更
11	2013/12/1	SK	P58リダイヤルモニター追記。P6電話回線に関して追記。



注意

※ ロジック定義方法に関しましては、T 001 346 J 『Sakura6 with/Logic 利用者マニュアルロジック定義方法 基礎編』をご覧ください設定下さいませお願い申し上げます。

このマニュアルは、型式:DS6B-P-ABL03(例)の様に**L03と記載されている”L”(ロジック機能)が追記されたマニュアルです。

製品銘板の型式に”L”と記載されてないSakura6PlusのマニュアルはVersion04をご覧ください。



注意

プログラム構成

Sakura6は、ROCS-AA基板内にプログラムが組み込まれております。今までリリースされ、出荷された製品をプログラムの改版にてバージョンアップ変更するサービスは現在行なっておりません。予めご了承下さいませお願い申し上げます。

プログラム構成

モジュール名	型式:DS6	型式:DS6B	型式:DS6B-L03	備考
メインモジュール (主監視装置)	プログラムA	←不可→プログラムB	←不可→プログラムC	
マルチプレックスモジュール (従監視装置)	- (リリース無し)	プログラムB	←不可→プログラムC	
ビルオプション (設備監視装置)	- (リリース無し)	プログラムB	←不可→プログラムC	

型式毎のメインモジュール・マルチプレックス・ビルディングオプションの組み合わせでご使用下さい。

目 次

1. 取付け手順 概要	5	5. 5 監視信号の接続	37
2. 事前作業	6	5. 6 マルチプレックスの動作確認	38
2. 1 コールセンター側の登録	6	5. 7 電源の投入	38
2. 2 パラメータの設定	6	5. 8 保守開始・保守終了の確認	39
2. 3 電話回線の準備	6	5. 9 ポートアラームの確認	39
2. 4 接続するインターホン型式確認	6	5. 10 システム電源監視機能の確認	40
2. 5 メインモジュール基板の確認	7	6. ビルディングオプションモジュールの接続	41
3. 取付け作業	9	6. 1 概要説明	41
3. 1 取付け場所の選定(各モジュール)	9	6. 2 接続方法	41
3. 2 本体取付け(各モジュール)	9	6. 3 ディップスイッチの設定	42
3. 3 インターホンとの接続	9	6. 4 ジャンパーピンの設定	42
3. 4 電話回線の接続	15	6. 5 設定ツールのパラメータ設定	42
3. 5 監視信号の接続	16	6. 6 監視信号の接続	42
4. 動作確認作業	17	6. 7 ビルディングオプションモジュール動作確認	42
4. 1 電源の投入	17	7. オプション接続	43
4. 2 音声着信確認	18	7. 1 外付けメンテナンススイッチの接続	43
4. 3 アナウンスの録音	23	7. 2 温度センサーの接続	44
4. 4 音声発信確認	23	7. 3 出力ポート接点①～②の接続	45
4. 5 保守開始・保守終了の確認	28	7. 4 出力ポート接点③～⑥の接続	46
4. 6 ポートアラームの確認	29	8. 終了作業	47
4. 7 システム電源監視機能の確認	29	9. DTMF設定作業	48
4. 7. 1 システム電源監視の検出 方法の説明	29	9. 1 設定手順	48
4. 7. 2 電源異常検出後の処理	30	9. 2 設定コマンド	49
4. 7. 3 毎日の最低電圧と最高電圧	33	リダイアルモニター機能の概要	58
4. 7. 4 ACアダプター(DC9V)電圧と バッテリー電圧の関係	33	10. インターホン信号真理値表	59
4. 8 アラーム時の動作表示確認	34	10. 1 6V単局/多局LEDランプ動作表示	59
5. マルチプレックスモジュールの接続	35	10. 2 24V単局/多局LEDランプ動作表示	59
5. 1 接続方法	35	付録1 装置仕様	61
5. 2 ディップスイッチの設定	35	付録2 部品配置図	63
5. 3 ジャンパーピンの設定	36	付録3 特記事項	65
5. 4 設定ツールのパラメータ設定	36		

安全に関する表示について

- ・本製品を安全に正しくお使いいただくために、注意事項を次のような表示と図記号で表しています。ここで示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載しています。必ず守ってください。
- ・また、別資料「T001 187J NLE製品 取扱い説明書-安全のしおり」も併せてお読み下さい。
- ・表示と意味は次のとおりです。



危険

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

1. 取り付け手順 概要

Sakura6 Plusを以下に示す手順で取り付けます。

STEP 1

事前作業 詳細は「2. 事前作業」を参照して下さい。

- ①コールセンター側の登録
- ②パラメータの設定
- ③電話回線の準備
- ④接続するインターホンの型式確認
- ⑤基板の確認(ジャンパーピン、ディップスイッチ)

STEP 2

各モジュール 取付け作業 詳細は「3. 取付け作業」を参照して下さい。

- ①取り付け場所の選定
- ②インターホンの接続
- ③電話回線の接続
- ④監視信号の接続

STEP 3

動作確認作業 詳細は「4. 動作確認作業」を参照して下さい。

- ①音声着信動作
- ②音声発信動作
- ③保守開始発信、保守終了発信
- ④ポートアラーム発信
- ⑤定時発報動作
- ⑥eControl接点出力機能の確認
- ⑦温度センサーの動作確認
- ⑧システム電源監視センサーの動作確認

STEP 4

マルチプレックスモジュール 取付け作業

- ①接続方法
- ②パラメータ設定
- ③基板の確認(ジャンパーピン、ディップスイッチ)

STEP 5

ビルディングオプションモジュール 取付け作業

- ①接続方法
- ②パラメータ設定
- ③基板の確認(ジャンパーピン、ディップスイッチ)

STEP 6

オプション接続

- ①外付けメンテナンススイッチ
- ②温度センサー
- ③ポート出力接点

STEP 7

終了作業

- ①バッテリー接続

2. 事前作業

2. 1 コールセンター側の登録

1) データベース登録

コールセンター側データベースに以下の情報を登録しておく必要があります。

現場情報(所有者名、ビル名、機器情報)

端末情報(SakuraID、ポートアラーム、シリアル形式)

2. 2 パラメータ設定

1) パラメータ設定

設定ツールを使用して各パラメータを設定しておく必要があります。

詳細は「T001 291J Sakura6 Plus 取扱説明書-設定ツール編」を参照して下さい。

2) アナウンス録音

「現場名アナウンスの録音」及び「かご内アナウンスの録音」はDTMFコマンドでのみ可能です。

2. 3 電話回線の準備

1) PHS回線の場合(DS6B-P-***)

PHS回線の開通事務手続を行っておく必要があります。

2) NTT回線の場合(DS6B-M-***)

開通済みのNTT回線(アナログ回線・ISDNアナログポート)、もしくは弊社で動作確認を行った電話回線サービス(弊社指定回線)をご用意下さい。

本装置のTELコネクタはRJ-11です。

一般の電話モジュラーケーブル(6極2芯)で接続することができます。



注意

- ① 電話回線は、基本1端末装置に対して電話1回線が必要です。他の電話器とのブリッジ接続は行えません。現場の状況等によっては電話自動回線切替器等をご使用下さい。但し、動作保証を致し兼ねます。
- ② 構内交換機(PBX)並びにフリーダイヤル、IP回線には対応しておりません。
- ③ 電話回線は当社組込型PHS及びNTT電話回線並びに弊社指定回線以外は動作保証を致し兼ねます。

2. 4 接続するインターホン型式確認

表2.4-1 対応するインターホン

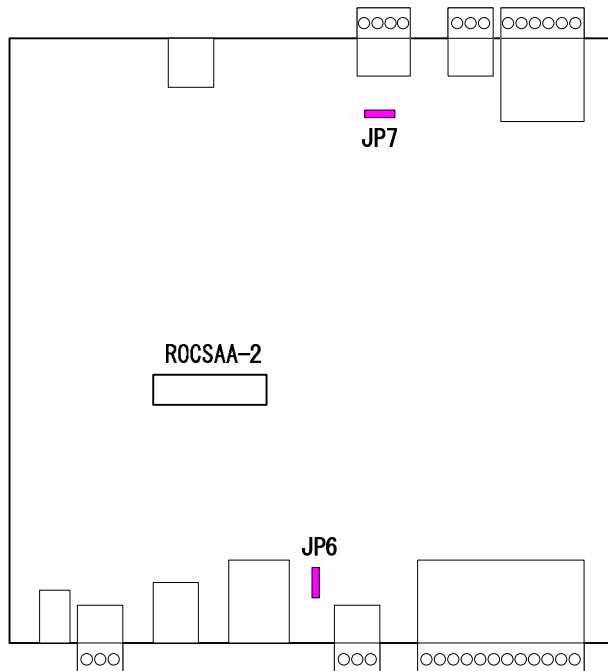
製造メーカー	種類		親/子	型番	接続数	備考
日本インターフォン	6V	単局	親機	E-01MV/E-01MV2	1	
			子機	E-01RV(C)	1	
		多局	親機	E-06MV(2)	1	
			子機	E-06RC(C)	1 ~ 4	
	24V	単局	親機	EZ-01MV(2)	1	
			子機	EZ-RV(C)	1	
		多局	親機	EZ-05(10)MV	1	
			子機	EZ-RV(C)	1 ~ 4	
アイホン	-	-	-	-	-	未対応
ナショナル	-	-	-	-	-	未対応

2. 5 メインモジュール(主監視装置)基板の確認

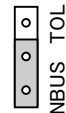


注意 本作業は電源及びインターホンとの接続を行う前に行って下さい。

1) ジャンパーピンの確認



JP6: シリアル1の用途を指定します

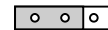


TOL: 設定ツールで使用する。

NBUS: NLE-BUSで使用する。

(マルチプレックスモジュールや
ビルディングオプション継続時)

JP7: シリアル2の通信方式を指定します



232 485

232: RS232C方式

485: RS485方式

図2.4.1-1 ジャンパーピン

JP6: シリアル1の用途

標準ではオープンとなっています。

但し、マルチプレックスモジュールやビルディングオプションとの通信を行う時にNBUS側にジャンパーピンを挿す必要があります。



注意 メインモジュール用のJP6ジャンパーピンは、マルチプレックスモジュール若しくはビルディングオプション小袋に入ってます。

JP7: シリアル2の通信方式

本装置では、意味を持ちません。

標準ではオープン(ジャンパーピン無し)となっています。

2) ディップスイッチの確認と設定

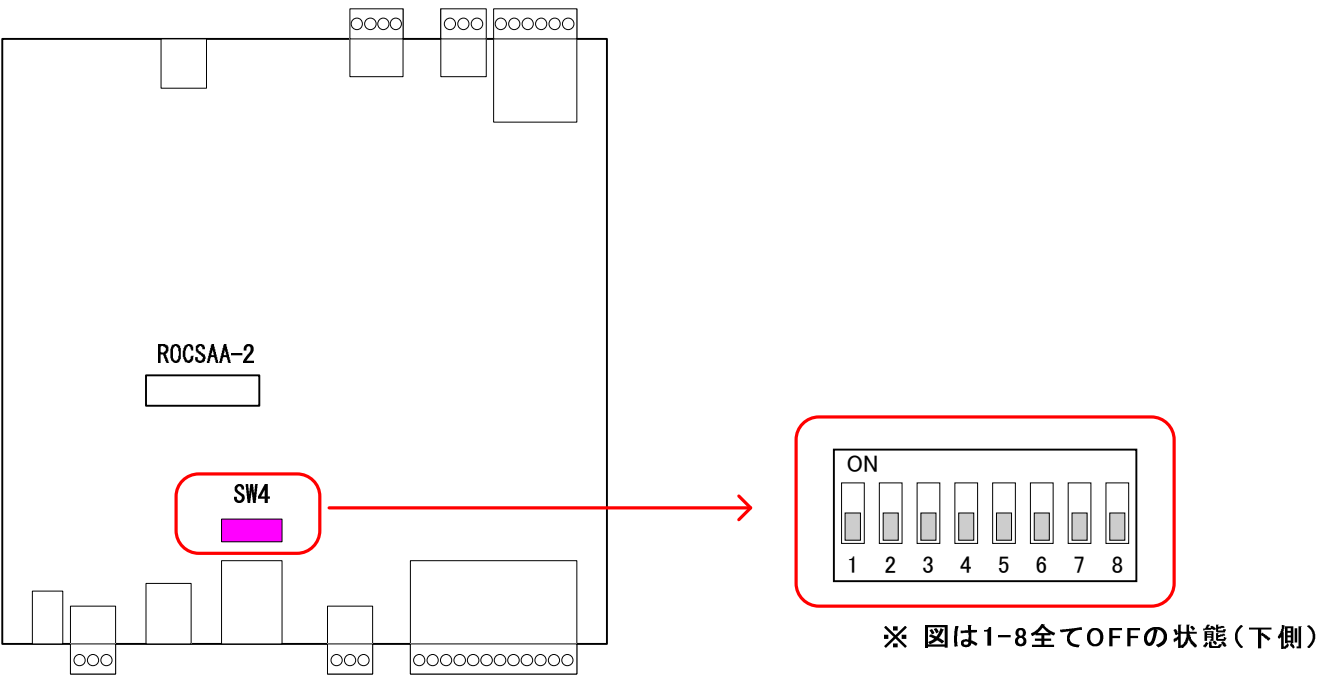


図2.4.2-1 ディップスイッチ

- DSW-1

インターホンの電圧を指定します。

OFF: 6V

ON: 24V
- DSW-2

インターホンの子機種種別を指定します。

OFF: 単局

ON: 多局
- DSW-3

電話回線の種別です。

型番がDS6B-M-***の場合は、OFF: NTT回線 になっていることを確認して下さい。

型番がDS6B-P-***の場合は、ON:PHS回線 になっていることを確認して下さい。
- DSW-4 ; DSW-5 ; DSW-6 ; DSW-7 ; DSW-8

本装置では必ずOFFにして下さい。

表2.4.2-1 ディップスイッチの設定パターン

種別			ディップスイッチ							
回線	電圧	局数	1	2	3	4	5	6	7	8
NTT	6V	単局	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
NTT	6V	多局	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
NTT	24V	単局	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
NTT	24V	多局	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PHS	6V	単局	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PHS	6V	多局	OFF	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PHS	24V	単局	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PHS	24V	多局	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

3. 取り付け作業

3. 1 取り付け場所の選定(各モジュール)

1) 全般

- a. 直射日光が長時間あたる場所は避け下さい。
- b. 本体へ常に水がかかる場所は避けて下さい。

2) PHS回線の場合

- a. 加入契約されたPHS事業者のサービスエリア内であること。
- b. 建築・構造物で電波が遮断されていないこと。
- c. 特に金属の壁面への取付は避けること。

3. 2 本体取付け(各モジュール)

本装置は壁取付け用に上部と下部に取り付け穴を用意しています。付属のネジで止めて下さい。

3. 3 インターホンとの接続(主監視装置(メインモジュール)のみ)

1) インターホン電圧の確認

6Vの場合、親機と子機で通話中のときインターホン接続ケーブルの(-)と(+)間の電源電圧が5.0V(定格6V)以上であることをテスターで確認して下さい。

24Vの場合、親機と子機で通話中のときインターホン接続ケーブルの(-)と(+)間の電源電圧が20V(定格24V)以上であることをテスターで確認して下さい。

2) インターホンとの接続



注意

- a. 安全の為、インターホン側の電源を切った状態で作業を行って下さい。
- b. 使用する線は、単線/撚線 AWG#28-#16 1.5mm² 被服剥き処理 6-7mm
- c. インターホンの端子と本装置の端子TB4を次ページ以降に示す接続図を参考にして接続して下さい。

図3.3.2-1 インターホン接続する端子(TB4)図

図3.3.2-2 インターホン6V単局の接続図

図3.3.2-3 インターホン6V多局の接続図(標準タイプ)

図3.3.2-4 インターホン6V多局の接続図(EHSタイプ)

図3.3.2-5 インターホン6V多局の接続図(RG2タイプ)

図3.3.2-6 インターホン24V単局/多局の接続図

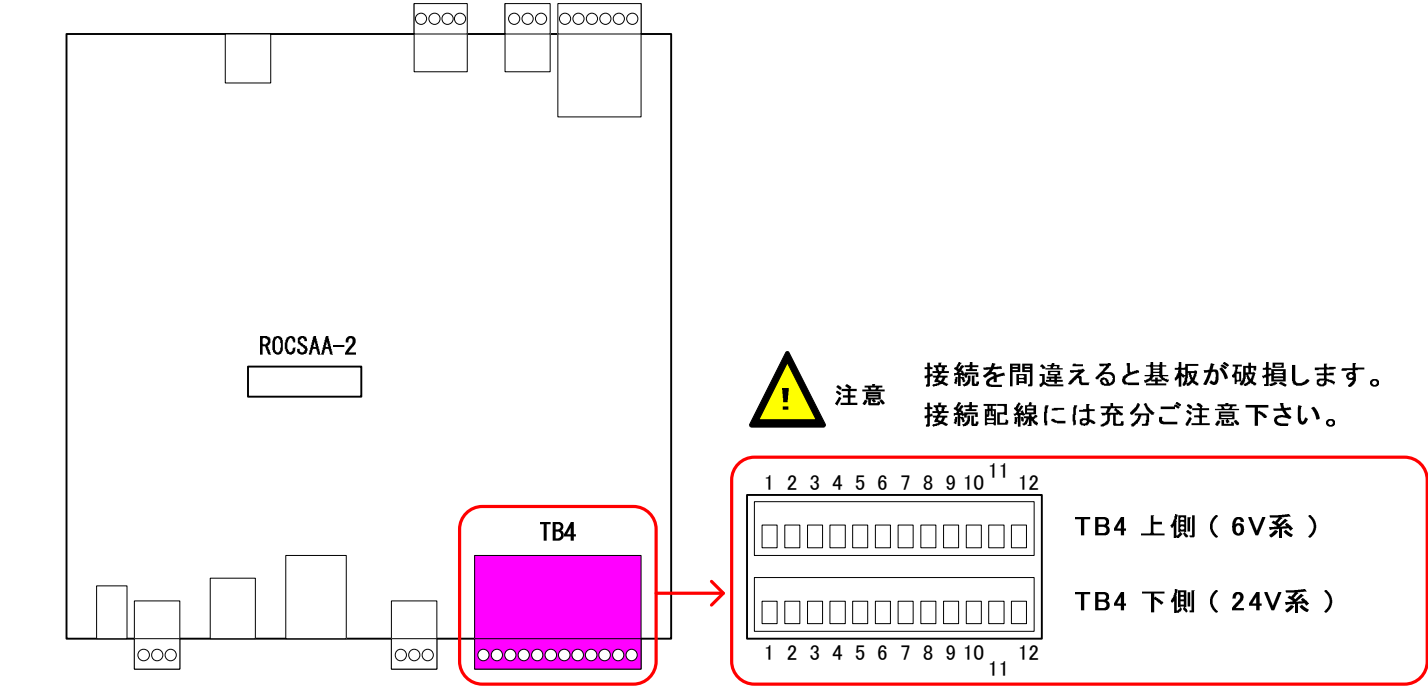


図3.3.2-1 インターホン接続端子(TB4)

表3.3.2-1 インターホン接続端子の割り当て(TB4)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
TB4-上側	6V系	L	R	-	+	C	M1	M2	M3	M4			
TB4-下側	24V系	+	-	L1	L2	1A	1B	2A	2B	3A	3B	4A	4B

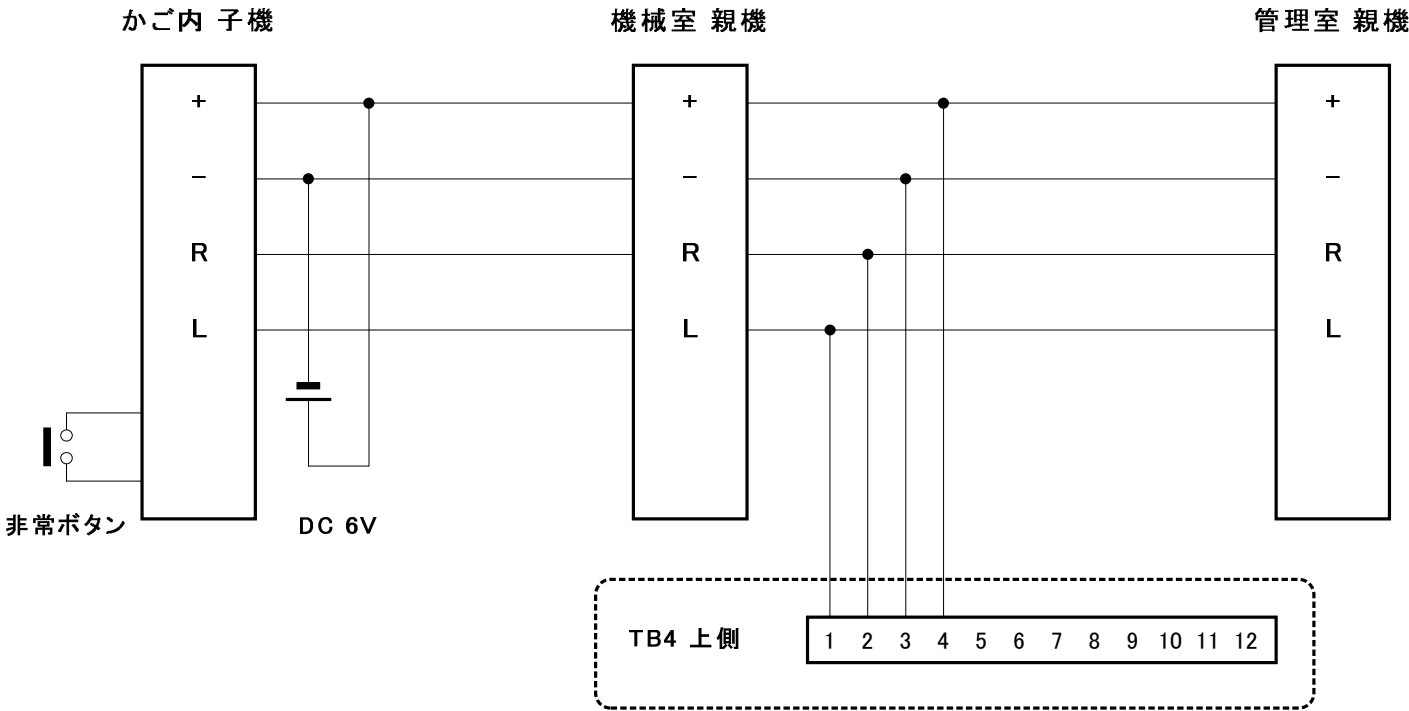


図3.3.2-2 インターホン 6V単局接続図

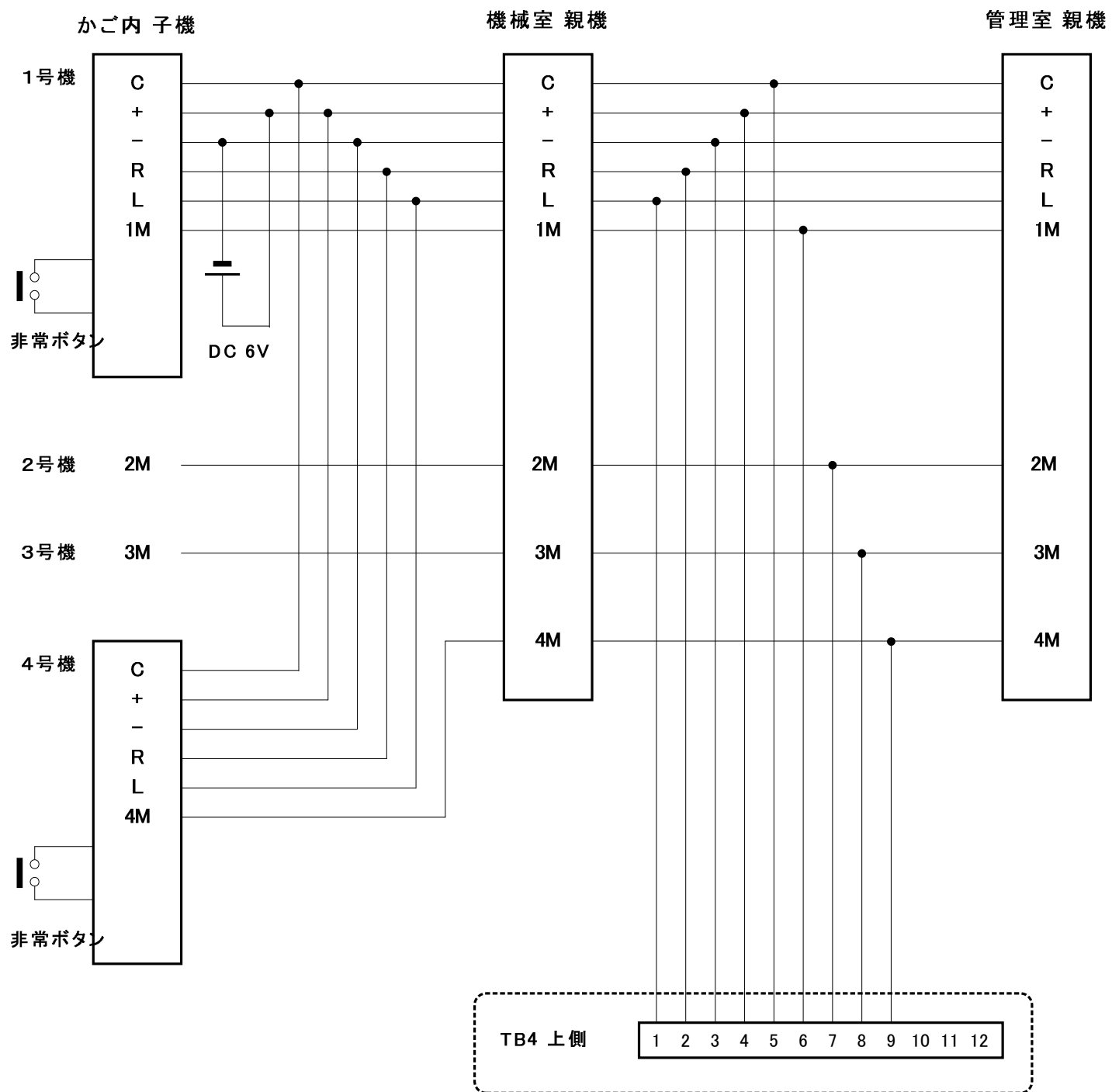
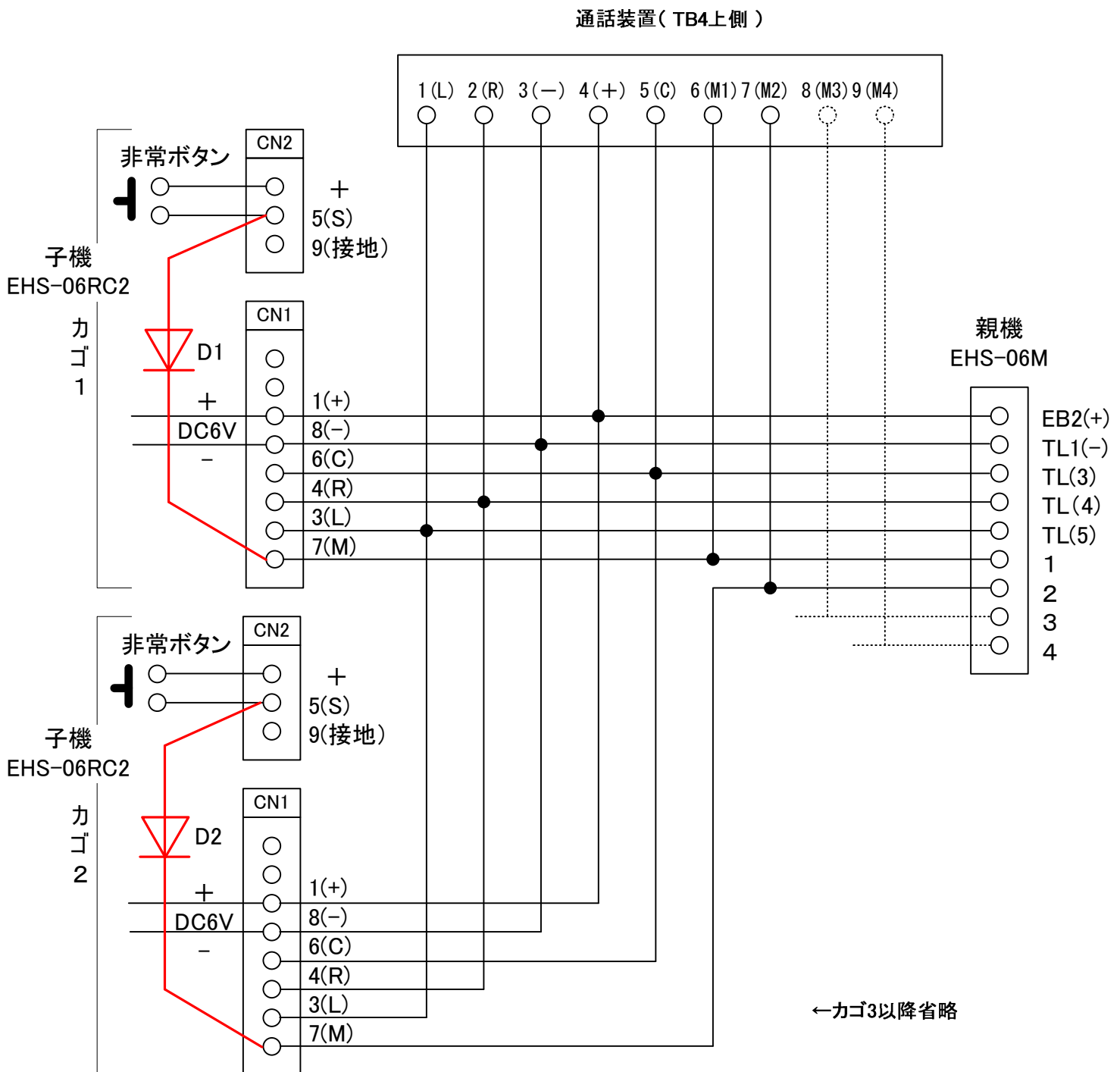


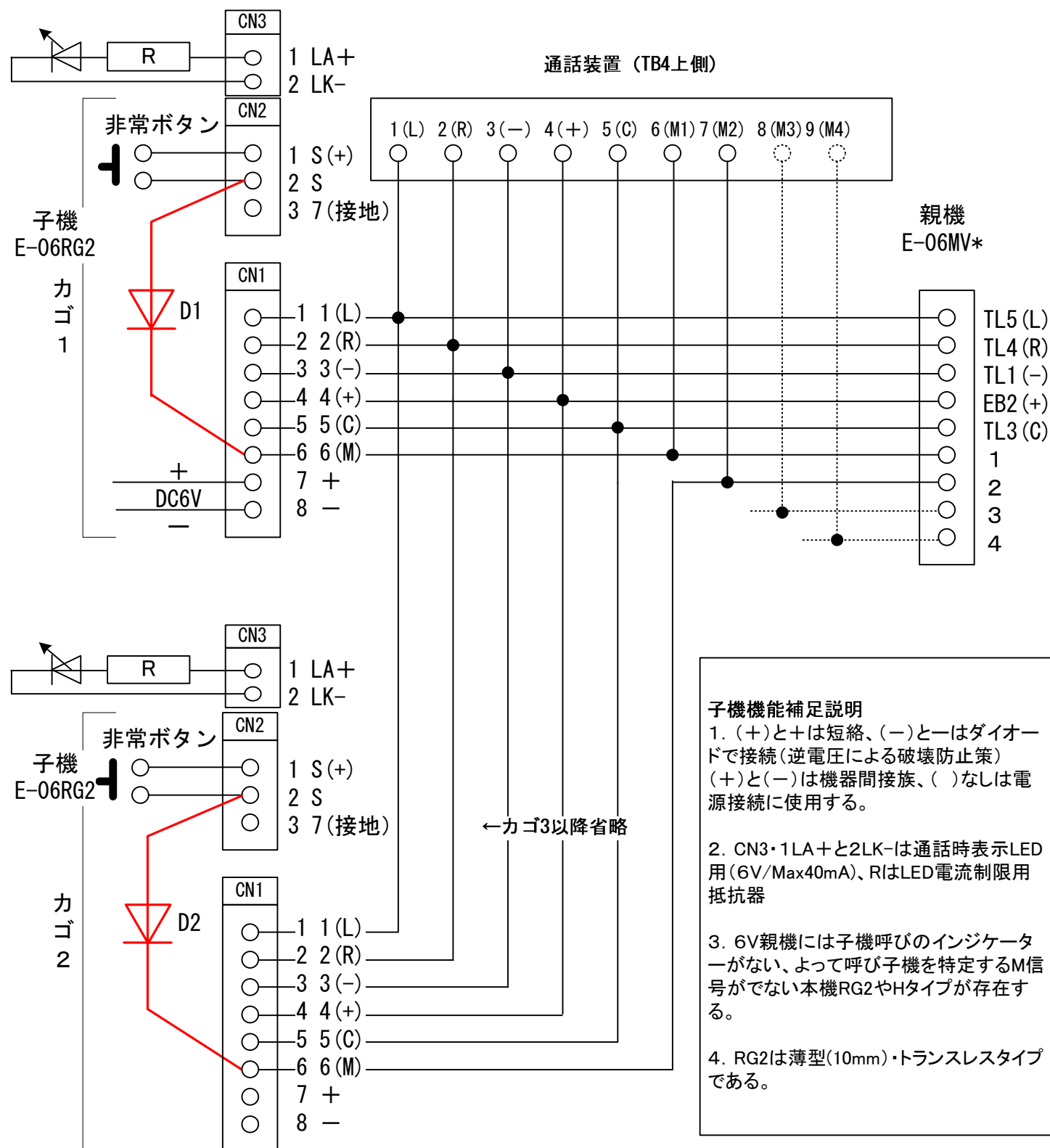
図3.3.2-3 インターホン 6V多局接続図(標準型)

注)
EHS型の場合は、図3.3.2-4 インターホン 6V多局接続図(EHS型) を参照して下さい。
RG2型の場合は、図3.3.2-5 インターホン 6V多局接続図(RG2型) を参照して下さい。



- 本図はEHS-06M⇔EHS-06RC2インターホンシステムを、当社通話装置に適用するための標準回路図である。
- 子機の非常ボタンを押下した場合の、その呼び選択信号Mを付加する回路図である。
- 朱書き部のD1、D2……ダイオードを追加する。
D1、D2: 逆電圧12V以上、順電流10mA。ダイオード1S1588相当(東芝)
- 本回路図は一例である。
本図を参考に実システム(実配線)に応じた追加工事を行うこと。

図3.3.2-4 インターホン 6V多局接続図(OEM製品 EHSタイプ)



- 本図はRG2形インターホンシステムを、当社通話装置に適用するための標準回路図である。
- 子機の非常ボタンを押下した場合の、その呼び選択信号Mを付加する回路図である。
- 朱書き部 (CN2・2～CN1・6の間にD1、D2・・・ダイオードを追加する。
ダイオード仕様：逆電圧12V以上、順電流10mA。ダイオード1S1588相当(東芝)
- 本回路図は一例である。
本図を参考に実システム(実配線)に応じた追加工事を行うこと。

図3.3.2-5 インターホン 6V多局接続図(OEM製品 RG2タイプ)

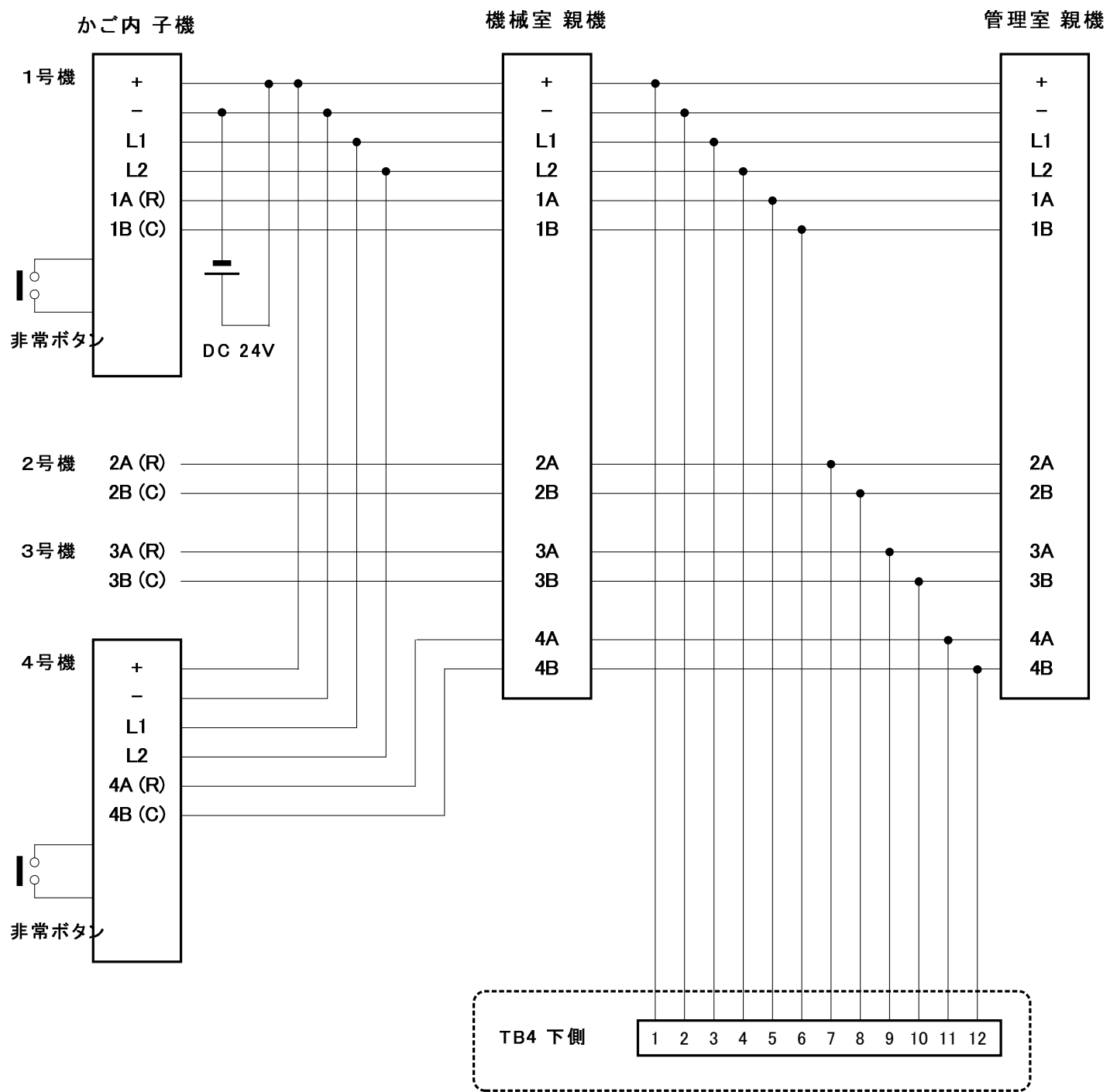


図3.3.2-6 インターホン 24V単局/多局接続図

3. 4 電話回線の接続

1) 電話回線の接続

a. NTT回線の場合(DS6B-M-***)

CN3-TELに一般の電話モジュラーケーブル(6極2芯)を接続します。



注意

CN-3-TELに外付けアナログタイプPAUを接続する場合は、DSW-3(ディップスイッチ3)をOFF(NTT)に設定下さい。

b. PHS回線-内部アンテナの場合(DS6B-P-N**)

付属品の小袋の中にPHSユニットの内部アンテナがあります。下図の『アンテナの接続箇所』に差込んで下さい。取付けを行わず、ご使用になりますと、『PHSが発着信しない』症状に至る場合があります。

c. PHS回線-外部アンテナの場合(DS6B-P-A**)

添付された外部アンテナ(3m)をPHSユニットに接続して下さい。



注意

別途オプションにて中継ケーブル(7m)をご用意してあります。

エレベーターマシンルームレスなどの制御盤設置状況からPHS装置を昇降路の下部へ設置すると、PHSの電波が受信出来ない事があります。その様な際にはPHS 外部アンテナ(3m)と中継ケーブル(7m)をつなぎ、電波が届きやすい位置まで外部アンテナを昇降路上部に引き伸ばす事で、PHS電波が受信できる様に対応する方法があります。詳しくは弊社カスタマーサービスへお問い合わせ下さい。

アンテナの接続箇所

電話線の接続箇所

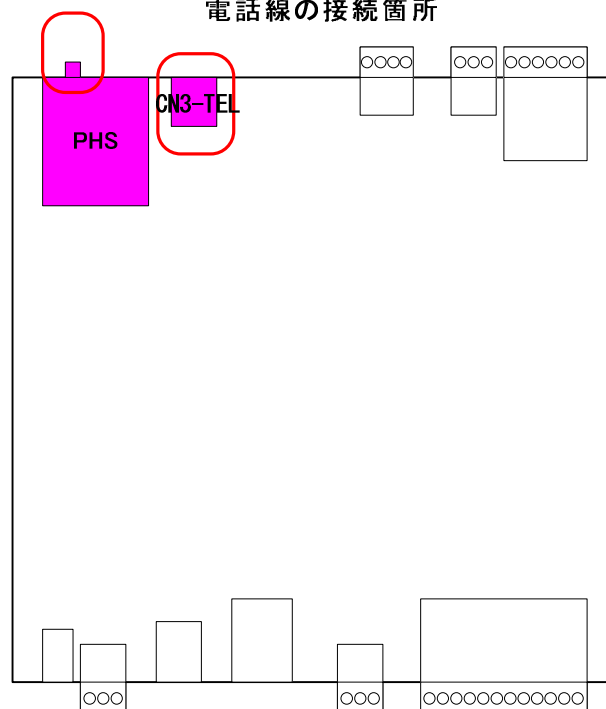


図3.4.1-1 電話回線関連の端子図



注意

PHSアンテナケーブルは1dB/1mのロスがありますので、長くすればするほど、トータル利得が落ちますので注意が必要です。

3. 5 監視信号の接続

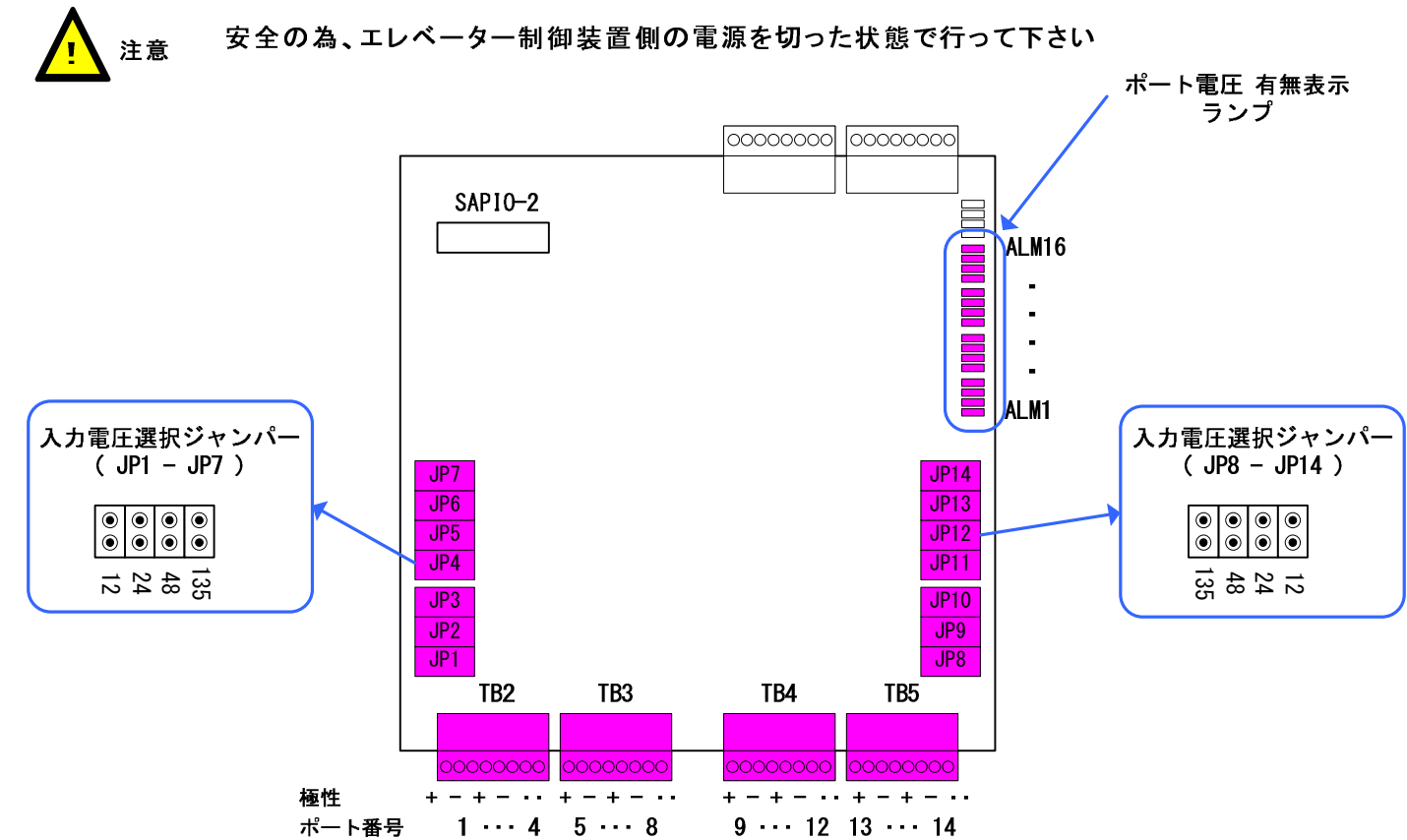


図3.5.1-1 監視信号接続関連図

- 1) 監視信号の電圧
- a. 表3.5.1-1に示すように接続可能な電圧はポートによって異なります。

b. ポート1とポート9は、115V～230V専用です。(AC/DC)

c. ポート1とポート9以外はジャンパーで入力電圧を選択できます。(AC/DC)

12 : 6V～12V

24 : 12V～24V

48 : 30V～48V

135 : 65V～135V

d. 監視する信号電圧に対応した選択をして下さい。誤った選択をした場合は、故障の原因となります。



注意

ポート	入力電圧	対応JP	端子番号	表示	ポート	入力電圧	対応JP	端子番号	表示
1	230V	－	TB2	ALM1	9	230V	－	TB4	ALM9
2	選択	JP1	TB2	ALM2	10	選択	JP8	TB4	ALM10
3	選択	JP2	TB2	ALM3	11	選択	JP9	TB4	ALM11
4	選択	JP3	TB2	ALM4	12	選択	JP10	TB4	ALM12
5	選択	JP4	TB3	ALM5	13	選択	JP11	TB5	ALM13
6	選択	JP5	TB3	ALM6	14	選択	JP12	TB5	ALM14
7	選択	JP6	TB3	ALM7	15	選択	JP13	TB5	ALM15
8	選択	JP7	TB3	ALM8	16	選択	JP14	TB5	ALM16

4 電源投入時 動作確認作業

全ての接続が正しく行われていることを確認後に、インターホン及び制御盤の電源を投入して下さい。

4. 1 電源の投入

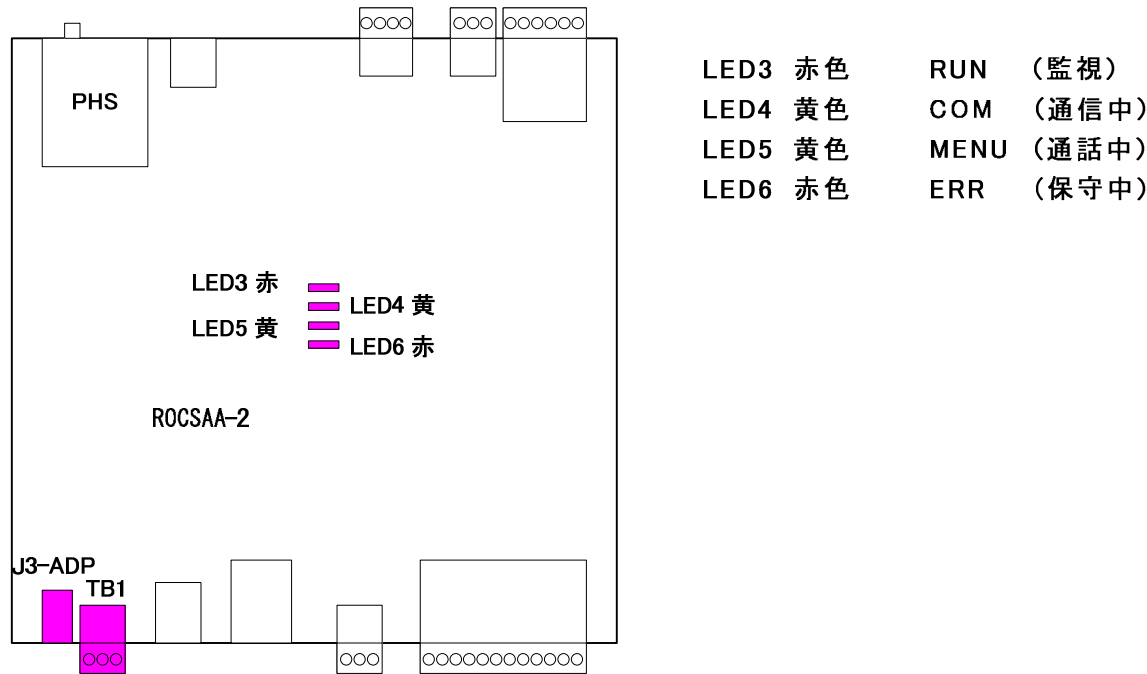
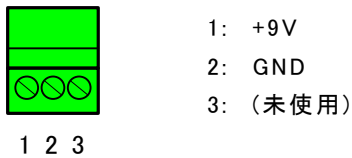
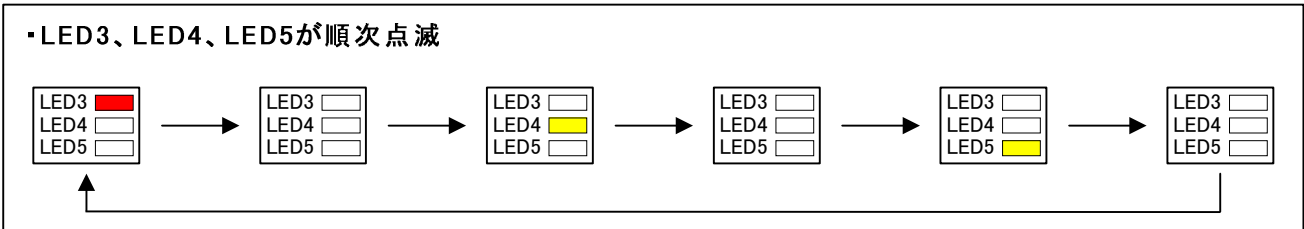


図4.1-1 実装図(電源、LED)

- 1) ACアダプター添付品の場合 (DS6B-**-*B*)
- ① J3-ADPに付属のACアダプターのジャックを差し込みます。
 - ② ACアダプターをAC100V電源に差し込みます。
- 2) ACアダプター未添付品の場合 (DS6B-**-*N*)
- ① DC9V供給元の電源がOFFになっていることを確認します。
 - ② TB1端子に DC9Vを接続します。
 - a. TB1端子の接続側をとりはずします。
 - b. 下図に従って、接続側プラグにDC9Vを接続します。
 - ③ DC9V供給元の電源をONにします。



- 3) 電源投入後の初期化表示(約30秒)
- 初期化中



4. 2 音声着信確認

4. 2. 1 NTT回線もしくは弊社動作確認の指定回線

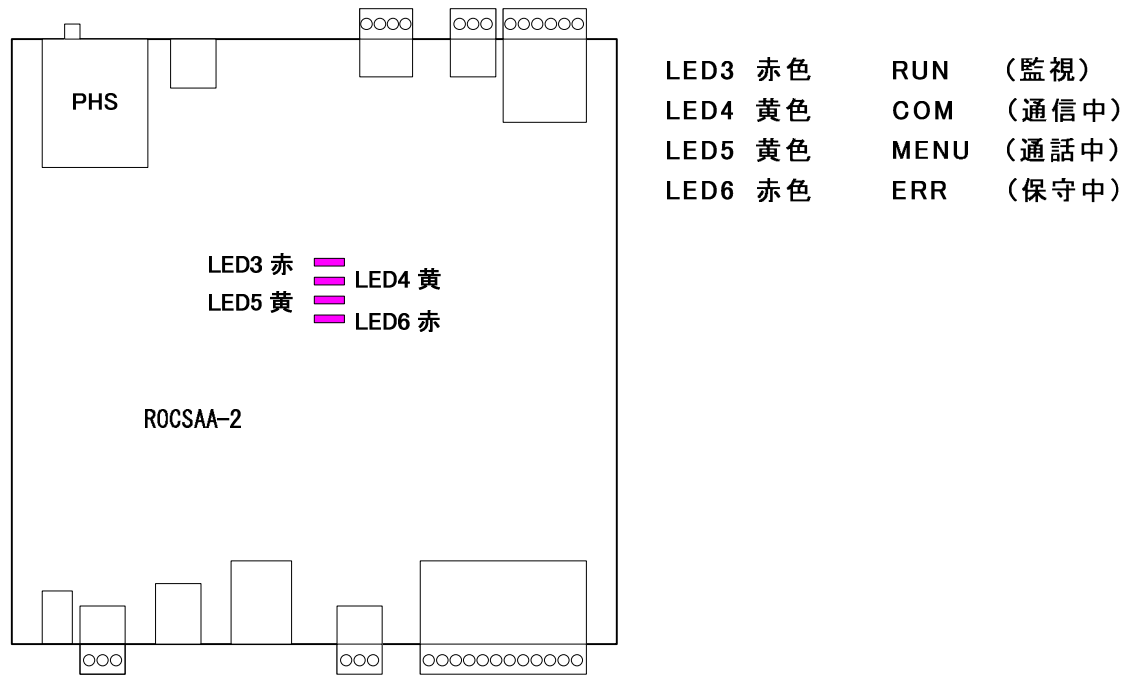


図4.2.1-1 実装図(NTT回線 LED)

- 1) 初期化～監視中
- ① 電源を投入します
 - 4.1項を参照
 - ② 図4.2.1-2に示すようにLED3～LED5が点灯し最終的にLED3が点滅すれば準備完了です。
 - ②-1 初期化中
 - LED3、LED4、LED5が順次点滅
 - ②-2 監視中
 - LED3のみ点滅

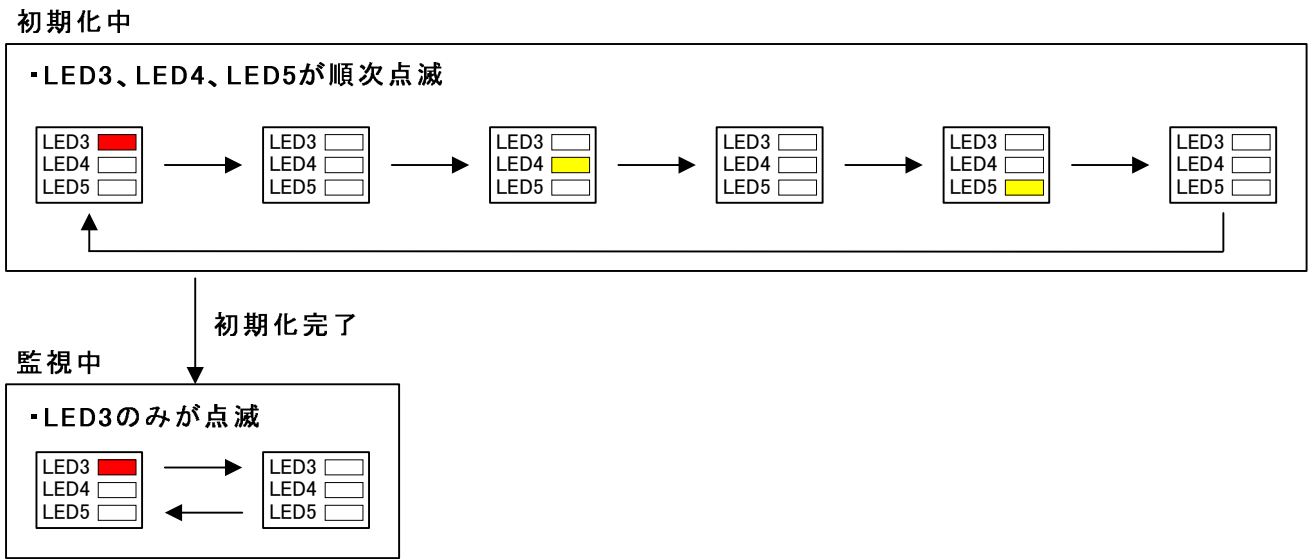


図4.2.1-2 状態LEDの遷移(初期化～監視中)

2) 着信確認

- ① 電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。
- ② ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。
- ③ 呼び出し音の後に”ピー”という連続音が受話器より聞こえます。
- ④ 連続音が止まると通話状態になります。
 - ・通話中はLED4のみが点滅します。
- ⑤ 発信側より通話を終了することで回線を切断します。
 - ・回線切断後は、監視中に戻りLED3のみが点滅します。

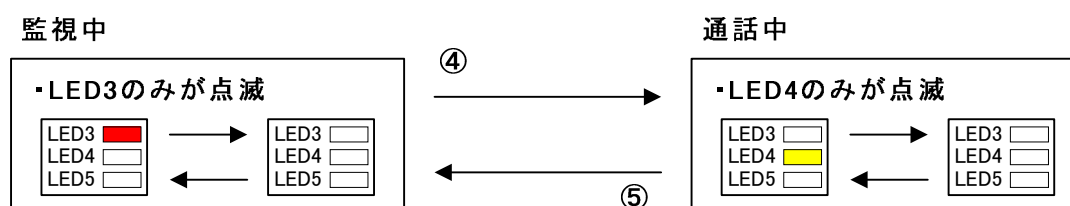


図4.2.1-3 状態LEDの遷移(音声着信)

4. 2. 2 PHS回線

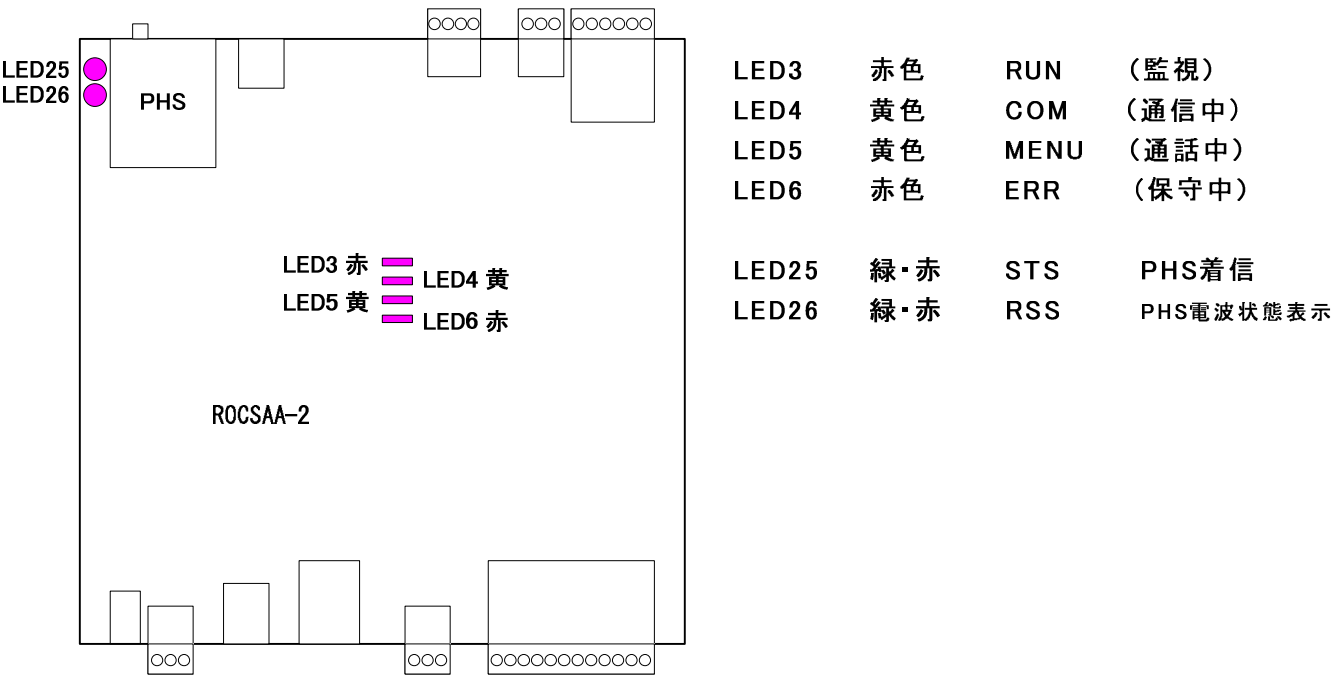


図4.2.2-1 実装図(PHS回線 LED)

- 1) 初期化～監視中
- ① 電源を投入します
4.1項を参照
 - ② 図4.2.2-2に示すようにLED3～LED5が点灯し最終的にLED3が点滅すれば準備完了です。
 - ②-1 初期化中
LED3、LED4、LED5が順次点滅
 - ②-2 監視中
LED3のみ点滅

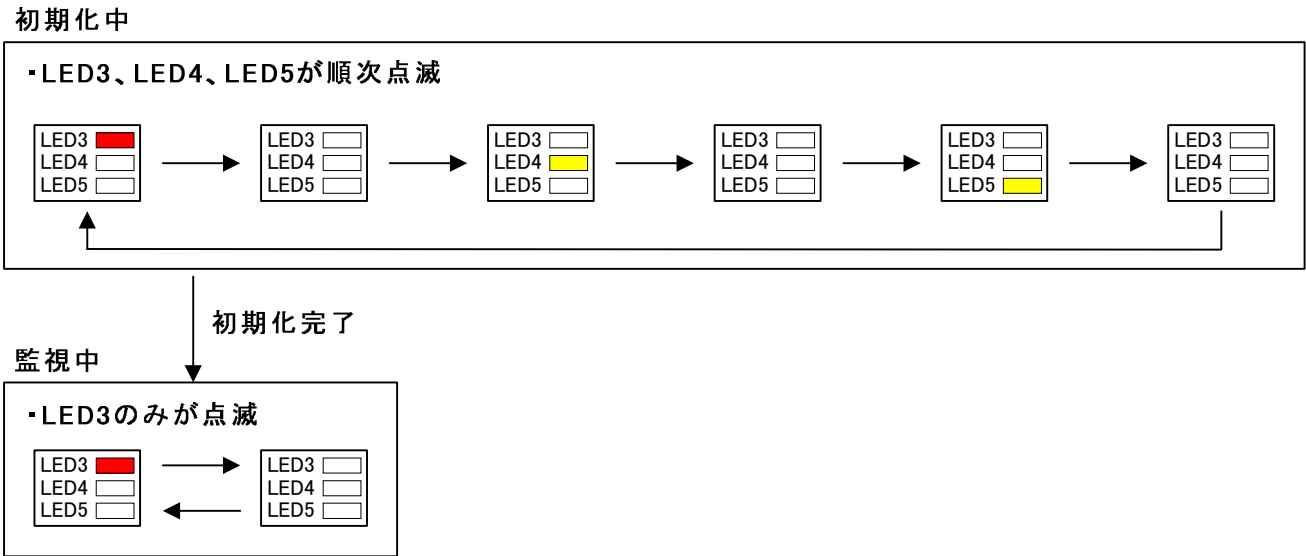


図4.2.2-2 状態LEDの遷移(初期化～監視中)

2) 電波状態の確認

① 図4.2.2-3に示すRSS(LED26)の表示内容で電波の状態を確認します。

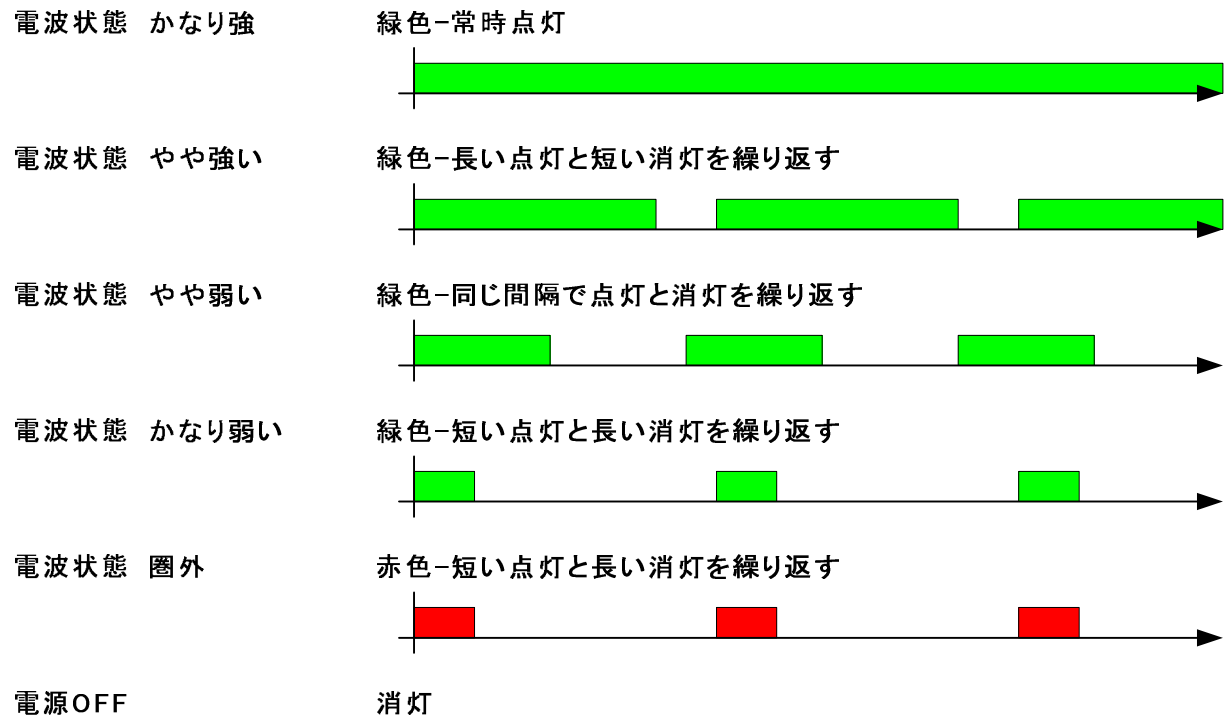


図4.2.2-3 電波状態(LED26)の表示内容

3) 着信確認

- ① 電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。
- ② ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。
- ③ 呼び出し音が止まると通話状態になります。
- ④ 発信側より通話を終了することで回線を切断します。

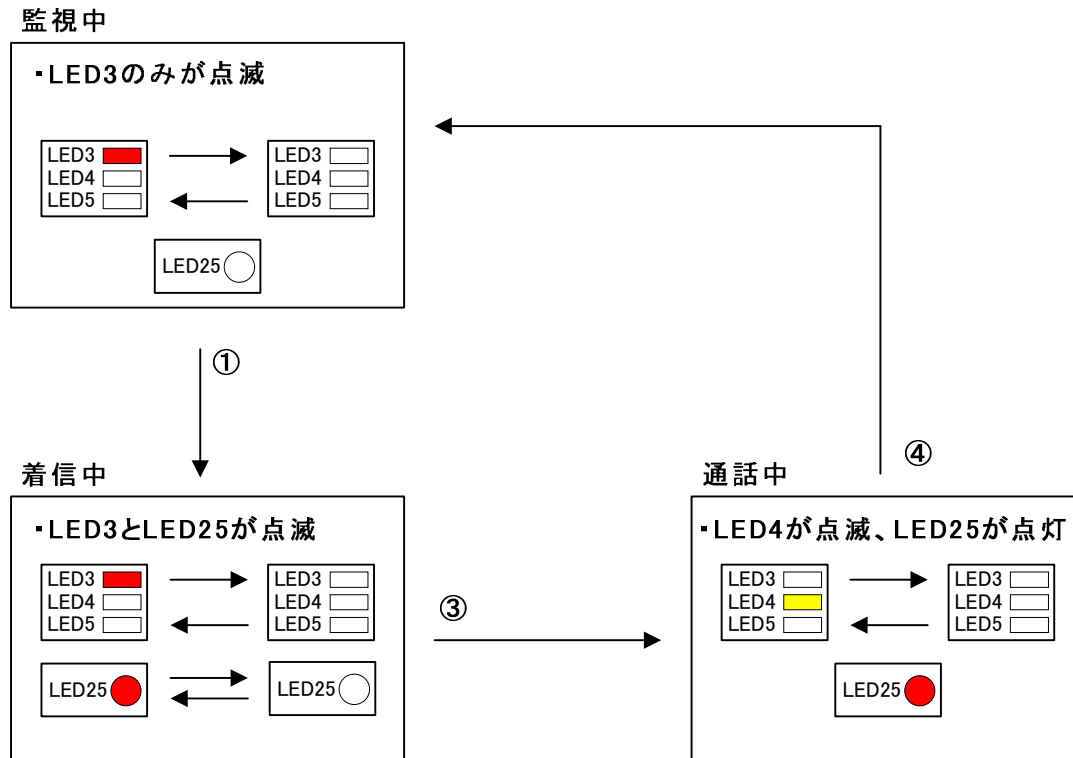


図4.2.2-4 状態LEDの遷移(PHS音声着信)

【注意】

呼び出し音の代わりにメッセージが聞こえた場合。

「おかけになった電話は電波が届かない場所にあるか電源が入っていません...」

- ・開通手続きが未完了。
- ・開通済みであるが、電波が届かない。

「おかけになった電話番号は現在使われておりません...」

- ・開通手続きが未完了。
- ・開通済みであるが、基地局に対して位置情報が登録できていない。

4. 3 アナウンスの録音

音声着信確認が完了したら、6項 設定作業で述べるアナウンスの録音を行って下さい。

- | | | |
|-----|-------------|----|
| ##8 | かご内アナウンスの録音 | 任意 |
| ##9 | 現場名アナウンスの録音 | 必須 |

4. 4 音声発信確認

4. 4. 1 前準備/確認事項

1) 発信する前に以下の注意事項を必ずご確認下さい。

- a) インターホン電源電圧の確認 (6V単/多局:DC5.0～7.0V、24V単/多局:DC22～26V)
- b) NTT電話回線の電圧(モデム版のみ) (DC48V～50V)
- c) PHSの場合、加入契約の手続がされていること。
- d) あらかじめ、発報先電話番号やSakuraID等のデータを設定ツールで登録して下さい。
- e) コールセンター側の機器が受信待機状態であること。
- f) コールセンター側のデータベースに設置するエレベーターの基本情報がすでに登録されていること。

4. 4. 2 発信動作・着信動作の確認

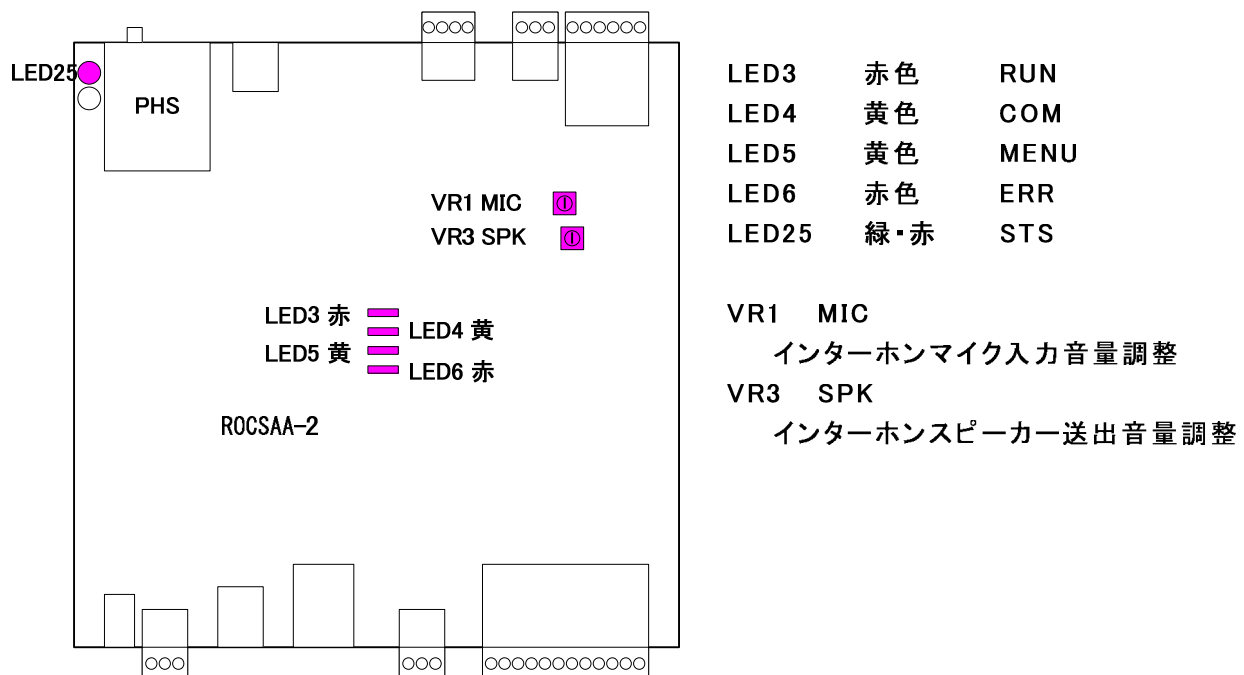


図4.4.2-1 実装図(状態LED)

1) 発信動作確認

- ① かご内インターホン子機の非常ボタンを3秒間押す。
- ② 非常ボタンが押された事を感じ発信動作を開始します。(非常音発鳴します)
- ③ かご内子機にアナウンス(かご内アナウンス)が再生され、設定された電話番号に発信します。
- ④ 設定された”非常音声連絡先電話番号1”に発信し

「無応答」「話中」等で相手に接続できない場合は、次の電話番号に発信します。

”発報先1” ⇒ ”発報先2” ⇒ ”発報先3” ⇒ ”発報先4” ⇒ ”発報先5”

接続されるまで、3サイクル(15回)繰り返します。

1: ”発報先1” ⇒ ”発報先2” ⇒ ”発報先3” ⇒ ”発報先4” ⇒ ”発報先5”

2: ”発報先1” ⇒ ”発報先2” ⇒ ”発報先3” ⇒ ”発報先4” ⇒ ”発報先5”

3: ”発報先1” ⇒ ”発報先2” ⇒ ”発報先3” ⇒ ”発報先4” ⇒ ”発報先5”

非常音声連絡先電話番号2以降が未設定の場合は、3サイクル(3回)繰り返します。

1: ”連絡先1”

2: ”連絡先1”

3: ”連絡先1”

- ⑤ 相手が応答すると”TaroID(DTMF-ID)”を通知後、相互通話が可能となります。

TaroID(DTMF-ID)が未設定の場合は、即相互通話となります。

TaroID(DTMF-ID)は通常、音声にて通知します。

現場名通知時期を”自動”に設定すると現場名アナウンスを先に再生し、相互通話が可能となります。

- ⑥ 相互通話は通常、4分間可能です。

相互通話可能時間の10秒前に警告音が流れ、相互通話可能時間を過ぎると自動切断します。

- ⑦ 相互通話中の確認内容は”4. 4. 3 通話中の動作確認”を参照して下さい。

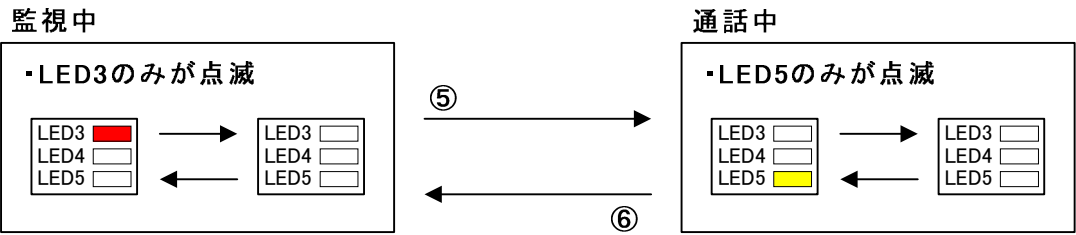


図4.4.2-2-a 状態LEDの遷移(NTT音声発信)

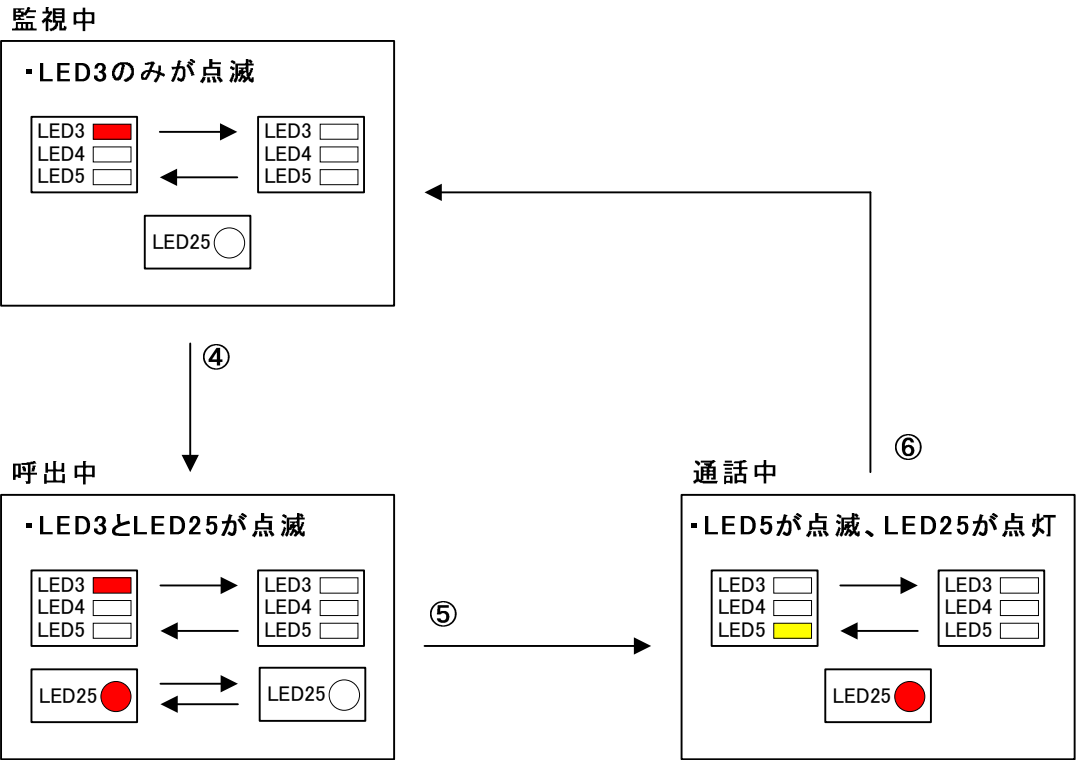


図4.4.2-2-b 状態LEDの遷移(PHS音声発信)

2) 着信動作確認

【NTT回線の場合】

- ① 電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。
- ② ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。
- ③ 呼び出し音の後に”ピー”という連続音が受話器より聞こえます。
- ④ 連続音が止まると相互通話状態になります。

単局の場合は#1、多局の場合は#1～#4のどれか子機を選択し、相互通話状態になります。

詳細は”4. 4. 3 通話中の動作確認”を参照して下さい。

- ⑤ 発信側より通話を終了することで回線を切断します。
- 相互通話可能時間を越えると自動切断します。
- ⑥ 相互通話中の確認内容は”4. 4. 3 通話中の動作確認”を参照して下さい。

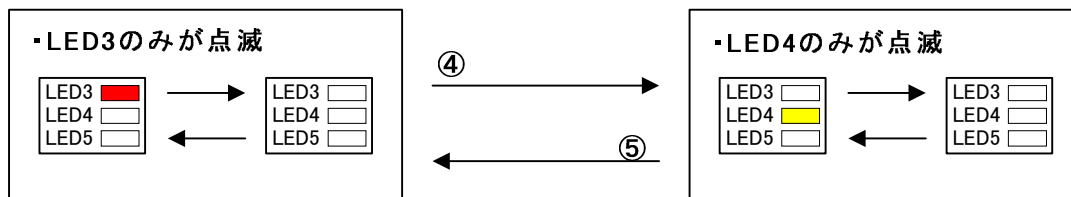


図4.4.2-3-a 状態LEDの遷移(NTT音声着信)

【PHS回線の場合】

- ① 電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。
- ② ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。
- ③ 呼び出し音が止まると相互通話状態になります。
- 単局の場合は#1、多局の場合は#1～#4のどれか子機を選択し、相互通話状態になります。
- 詳細は”4. 4. 3 通話中の動作確認”を参照して下さい。
- ④ 発信側より通話を終了することで回線を切断します。
- 相互通話可能時間を越えると自動切断します。
- ⑤ 相互通話中の確認内容は”4. 4. 3 通話中の動作確認”を参照して下さい。

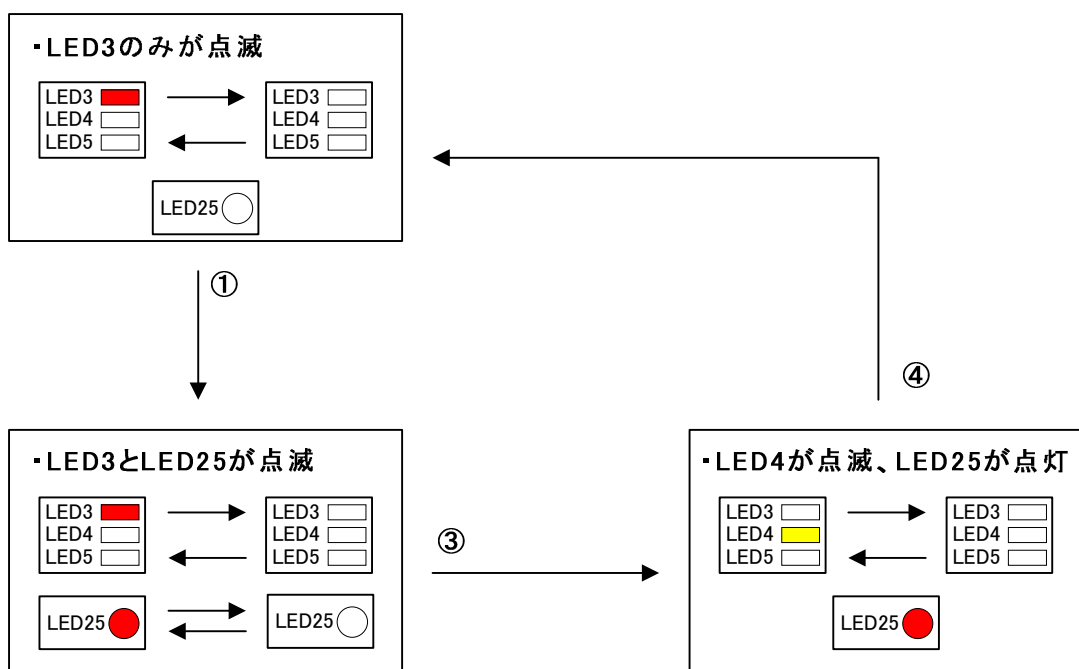


図4.4.2-3-b 状態LEDの遷移(PHS音声着信)

4. 4. 3 通話中の確認

1) 音量の調整

インターホンマイク感度

VR1 MICを精密マイナスドライバーを使用して調整します。

インターホンスピーカー音量

VR3 SPKを精密マイナスドライバーを使用して調整します。

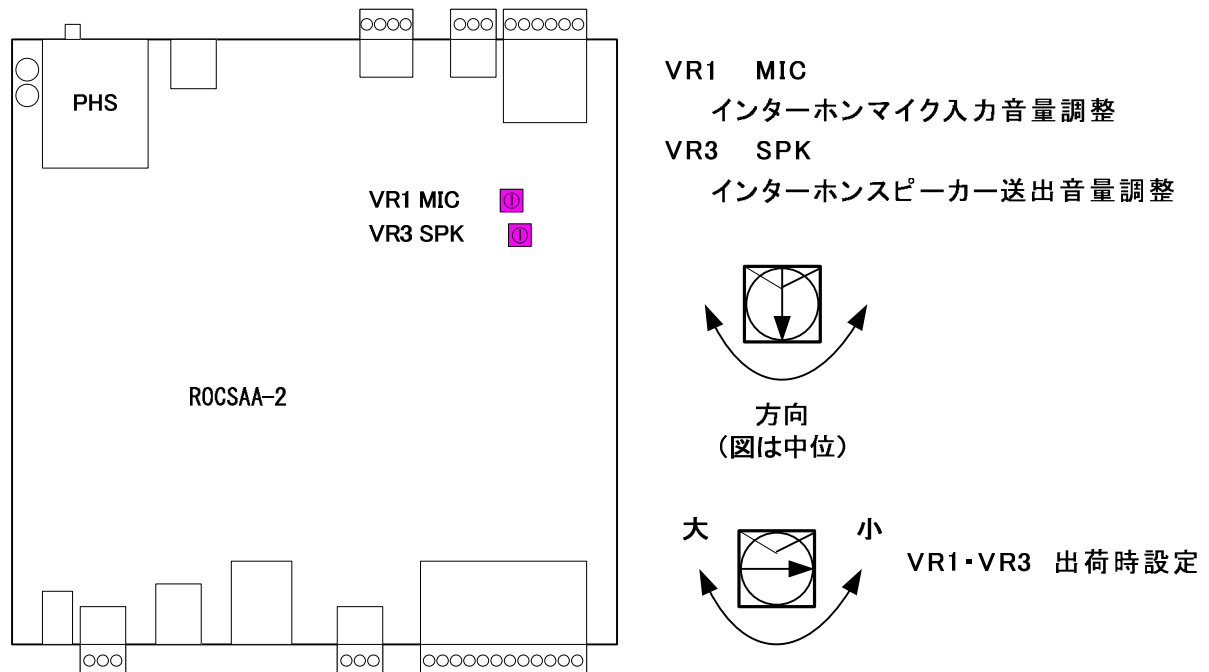


図4.4.3-1 実装図(調整用ボリューム)

2) 現場名アナウンス

コールセンター側電話機より”#*”を入力すると”##9”で録音した現場名アナウンスを再生します。

3) インターホンの子機選択

コールセンター側電話機より下記のコマンドを入力することで子機を選択できます。

(単局・多局共に操作して下さい)

- #1 1号機を選択します(1号機に切り替えます)
- #2 2号機を選択します(2号機に切り替えます)
- #3 3号機を選択します(3号機に切り替えます)
- #4 4号機を選択します(4号機に切り替えます)

- #01 1号機を追加選択します(会議モード)
- #02 2号機を追加選択します(会議モード)
- #03 3号機を追加選択します(会議モード)
- #04 4号機を追加選択します(会議モード)

#9 選択中の子機を接続解除します。

4. 5 保守開始・保守終了の確認

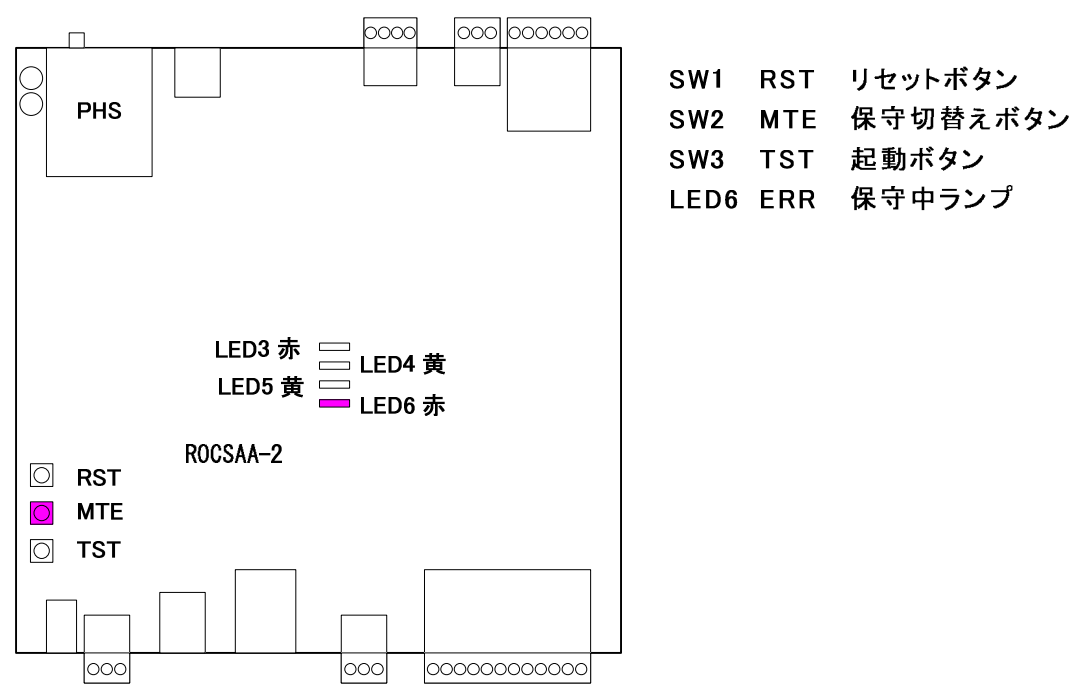


図4.5-1 実装図(保守スイッチ)

- 1) 保守開始
- a. 保守切替えボタンを規定時間(*1)以上押下します。

b. 保守切替えボタンを離した後、開始発報遅延時間(*2)を経過するとLED6が点滅しコールセンターへ発報します。
- 2) 保守終了
- a. 保守中(LED6点滅中)に保守切替えボタンを規定時間(*1)以上押下します。

b. 保守切替えボタンを離した後、終了発報遅延時間(*3)を経過するとLED6の点滅が消えコールセンターへ発報します。

*1 保守切替えボタン検出時間	標準5秒	設定ツールで変更可能
*2 保守開始発報遅延時間	標準5秒	設定ツールで変更可能
*3 保守終了発報遅延時間	標準30秒	設定ツールで変更可能

4. 6 ポートアラームの確認

1) アラームの生成

- a. 各ポートに接続した信号を用いてアラームを発生させます。
- b. ポートアラームを検出するとコールセンターに発報します。
- c. 一度発報したポートアラームは一定時間(*1)経過しないと発報しません。

*1 アラームマスク時間 標準60分 設定ツールで変更可能

4. 7 システム電源監視機能の確認(設定ツール編 P14/30 4.12機器監視基板-11.機器監視基板-114オプションセンサーでの事前設定が必要な項目があります)(出荷時温度センサーは未使用)

1) アラームの生成

- a. 下記のオプションセンサーの設定を行う事でアラーム発報動作が出来ます。

- ① 温度センサー *1
- ② ACアダプタ(DC9V) *2
- ③ 内蔵バッテリー電圧 *3
- ④ インターホン電源電圧 *4

が異常検出設定の値によって電圧及び温度が一定時間(*1)経過した時にアラームを発生させます。

- b. 設定した各センサーのアラームを検出するとコールセンターに発報します。

工場出荷設定値は、下記の通りです。

温度センサー	0: 未使用
電圧センサー(DC9V)	1-使用
電圧センサー(内蔵バッテリー)	1-使用
電圧センサー(インターホン)	1-使用

*1 温度センサー 上限温度設定	標準50℃、16秒検知
温度センサー 下限温度設定	標準16℃、16秒検知
温度センサー 正常復帰検知時間	標準60秒
*2 電源センサー ACアダプター電圧低下設定	標準6.5V、20秒検知
電源センサー ACアダプター電圧復旧設定	標準7.0V、30秒検知
*3 電源センサー 内蔵バッテリー低下設定	標準6.1V、4分検知
電源センサー 内蔵バッテリー復旧設定	標準6.5V、30秒検知
*4 電源センサー インターホンバッテリー低下設定	標準4.5V(6V)、標準21.0V(24V)、20秒検知
電源センサー インターホンバッテリー復旧設定	標準5.0V(6V)、標準22.0V(24V)、30秒検知

(全て設定ツールで変更可能)



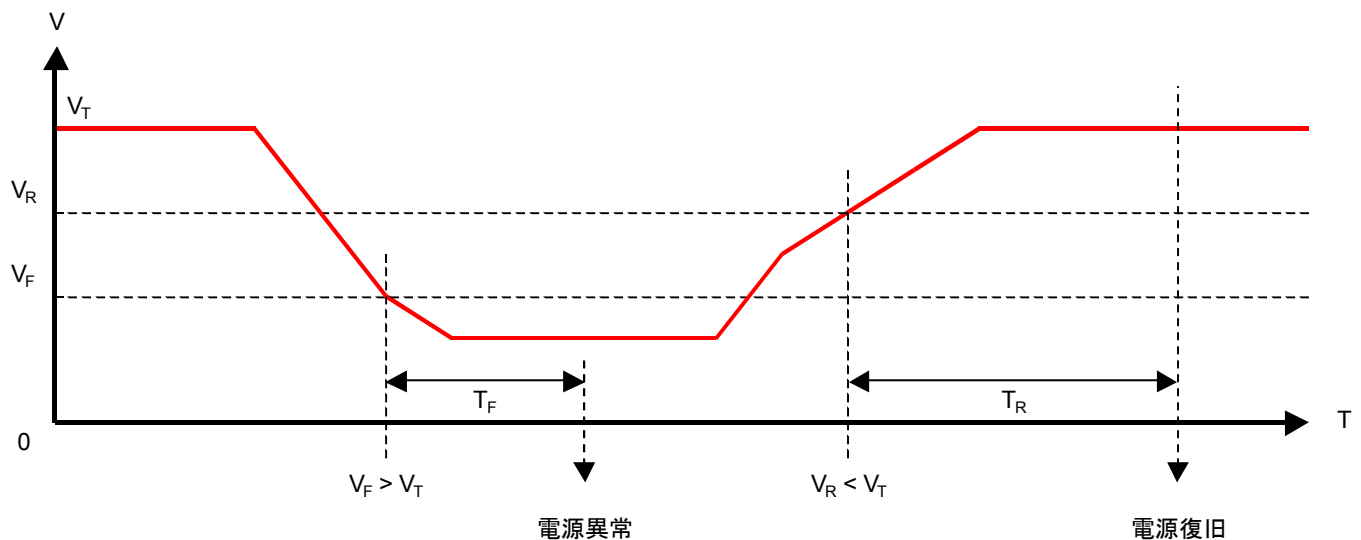
注意 『本装置には、P54/58の表 付録 1-2 一般仕様に記載してある通り、内蔵バッテリーはトリクル式充電機能を付加したバッテリーを採用しておりますので、DC9Vが接続(通電)状態で、内蔵バッテリーが未接続の場合、バッテリーへの充電電圧(7.8V前後)が表示されますので、ご注意下さい。』

4. 7. 1 システム電源監視の検出方法の説明

概要:

a) 対象電圧がパラメータ V_F (下限電圧)で指定した電圧以下の値で、パラメータ T_F (電源異常検知時間)で指定した時間以上継続した場合に電源異常(発報)となる。

b) 電源異常の検出後にパラメータ V_R (復旧電圧)で指定した電圧以上の値がパラメータ T_R (電源復旧検知時間)で指定した時間以上継続した場合を電源復旧(発報)とする。



V_T 対象電圧 (現在の値)

V_F 下限電圧

V_R 復旧電圧

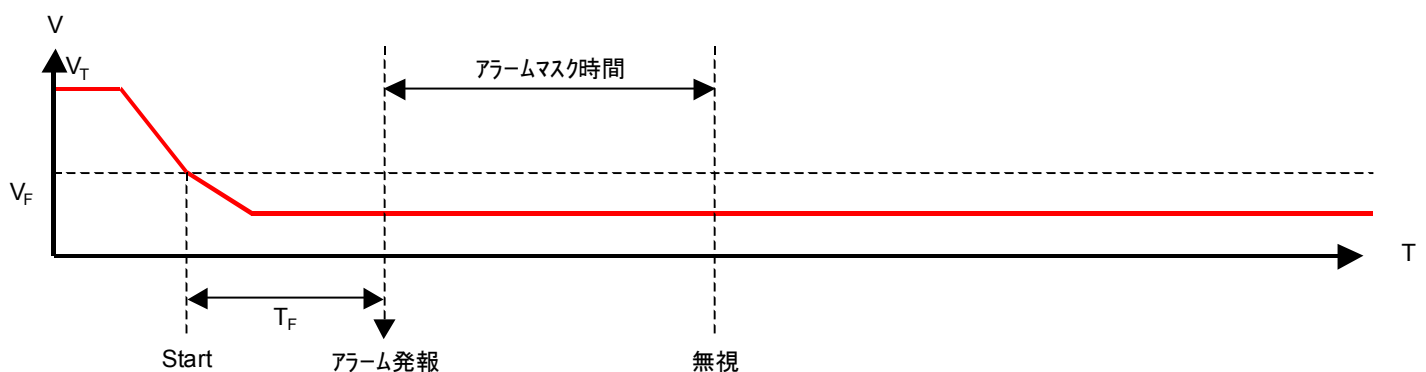
T_F 電源異常検知時間

T_R 電源復旧検知時間

4. 7. 2 電源異常検出後の処理

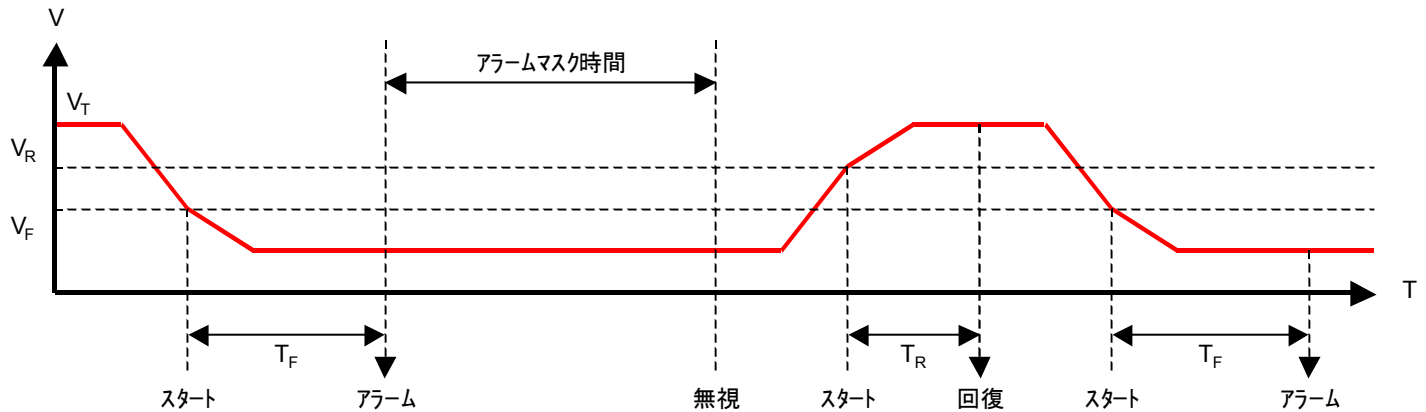
例①

アラーム発報後、電圧が正常値に復帰しないままアラームマスク時間を超過した場合は、電源復旧アラーム並びにアラームマスク時間を経過した再アラームは発報されません。



例②

アラーム発報後、電圧が正常値に復帰しないままアラームマスク時間を超過し、その後電圧が復旧電圧まで達して復旧検知時間を経過した時に回復となる。その動作チャートを下記に示します。



V_T 対象電圧（現在の電圧）

V_F 下限電圧

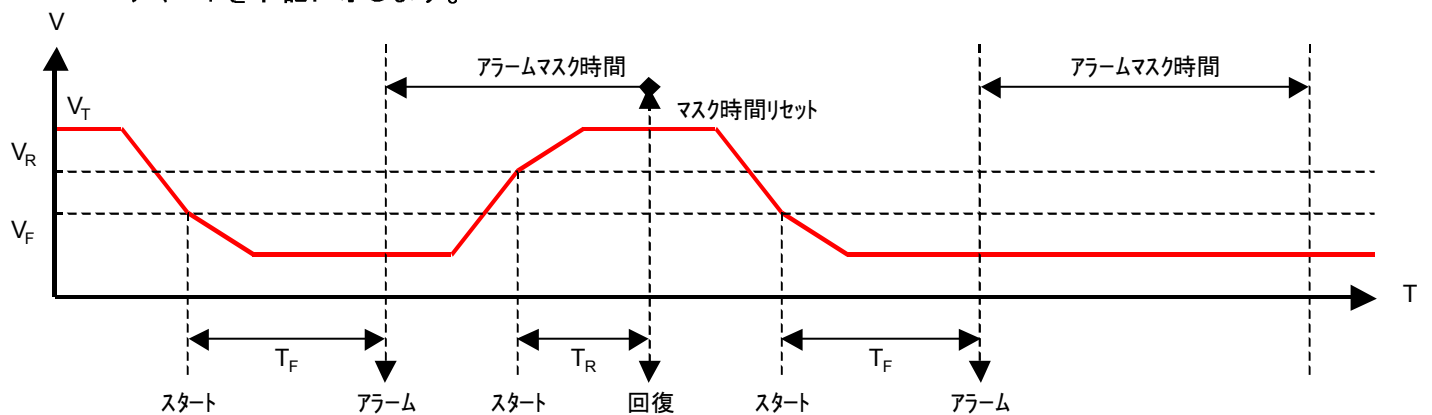
V_R 復旧電圧

T_F 電源異常検知時間

T_R 電源復旧検知時間

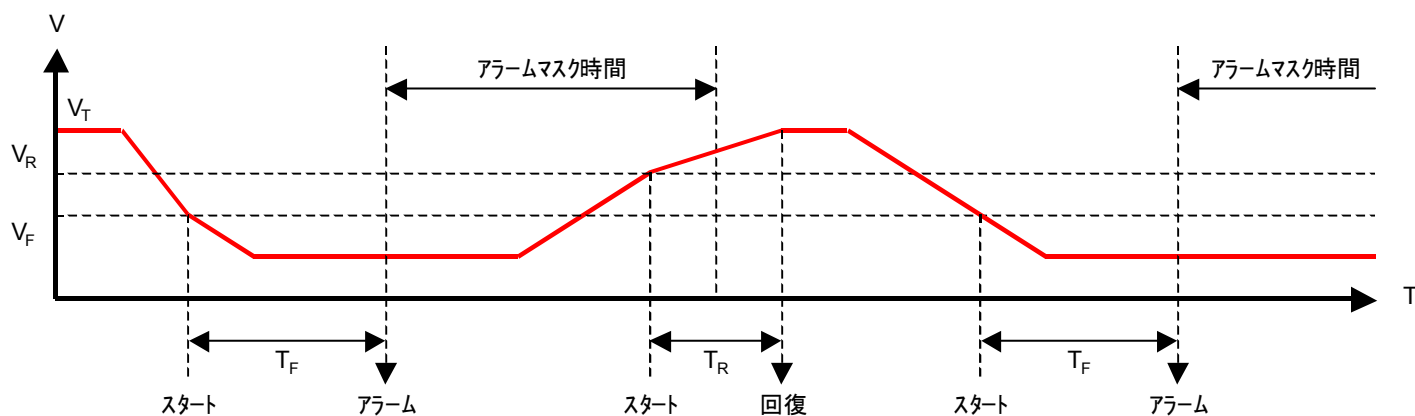
例③

アラーム発報後、アラームマスク時間中でも電圧が復旧電圧（ V_R ）に回復し、電圧復旧検知時間（ T_R ）の経過した時点でアラームマスクリセットが行なわれ、回復した状態となる。その後は、動作チャートを下記に示します。



例④

アラーム発報後、アラームマスク時間中に電圧が復旧電圧を超え、更に復旧電圧時間を経過した時に回復となる。その動作チャートを下記に示します。



V_T 対象電圧（現在の電圧）

V_F 下限電圧

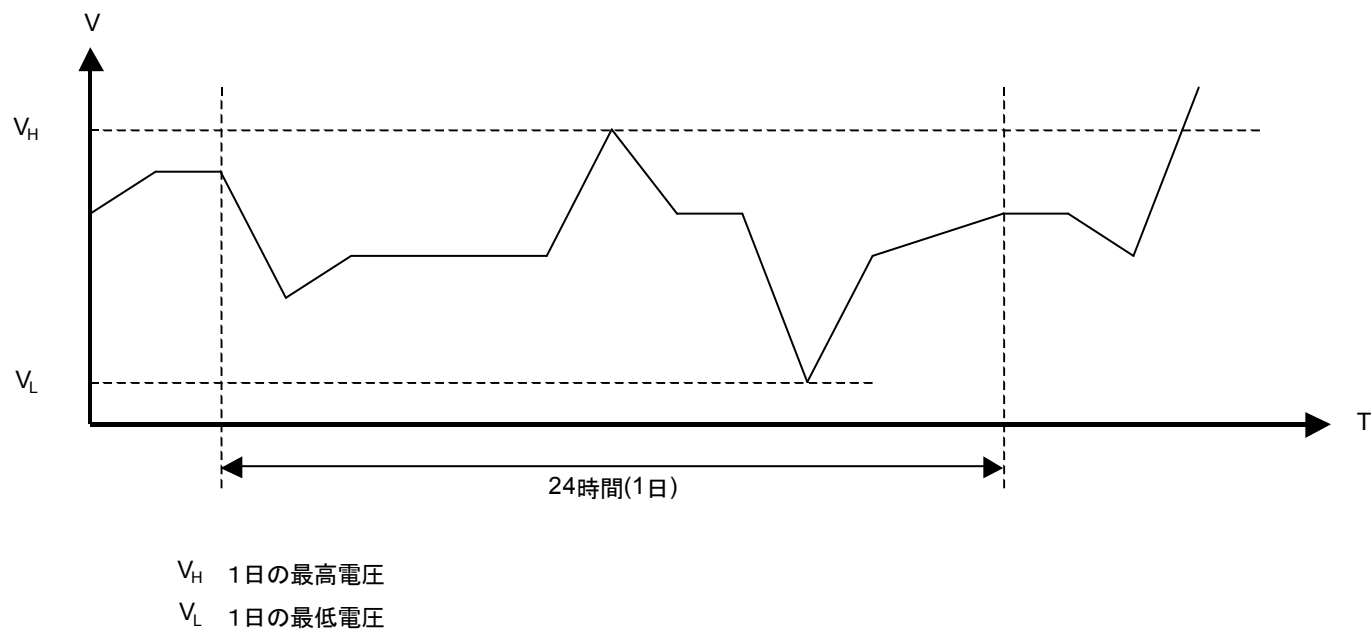
V_R 復旧電圧

T_F 電源異常検知時間

T_R 電源復旧検知時間

4. 7. 3 毎日の最低電圧と最高電圧

センター受信装置に『保守PC』を設置されているお客様では、日々監視を行なっている電圧値の最高値並びに最低値の数値を収集取得する事が出来ます。詳しくは、カスタマーサービスまでお問い合わせ下さい。



		9月1日	9月2日	9月3日	9月4日	...	9月29日	9月30日
ACアダプター (DC9V)	V_H	9.3	9.3	8.5	8.9	...	9.2	9.1
	V_L	8.9	8.7	0.0	8.7	...	8.1	8.8
バッテリー	V_H	7.2	7.2	7.2	6.3	...	7.2	7.3
	V_L	6.9	6.9	5.3	5.3	...	6.9	7.0
インターホン電圧	V_H	6.0	5.9	5.8	5.9	...	5.7	5.5
	V_L	5.3	5.2	5.5	4.0	...	4.2	3.0

4. 7. 4 ACアダプター(DC9V)電圧とバッテリー電圧の関係

装置本体に内蔵バッテリーを充電する回路があるため、下記の制約を受けます。

- 1) 残留電圧の影響を無効にするため1v以下の値は0vとして処理します。
⇒ ACアダプター(DC9V)を未接続 でも 0.2-0.9vの値を検出しています。
- 2) バッテリー未接続状態でもバッテリー電圧は0vではなく、充電用の供給電圧(8.2v 前後)になります。
- 3) バッテリーがフル充電の場合は8.2v 前後を示します。

4. 8 アラーム時の動作表示確認

a. アラーム発生時のLED表示ランプの動作手順を下記に示します。

1) 監視中～アラーム発生

- ① 監視状態から異常状態を発生させます。
- ② 図4.8.に示すようにLED3→LED5へ点灯が移行してコールセンターへの発報通信動作となります。
- ③ 発報が終了するとLED3が点滅し監視状態となります。

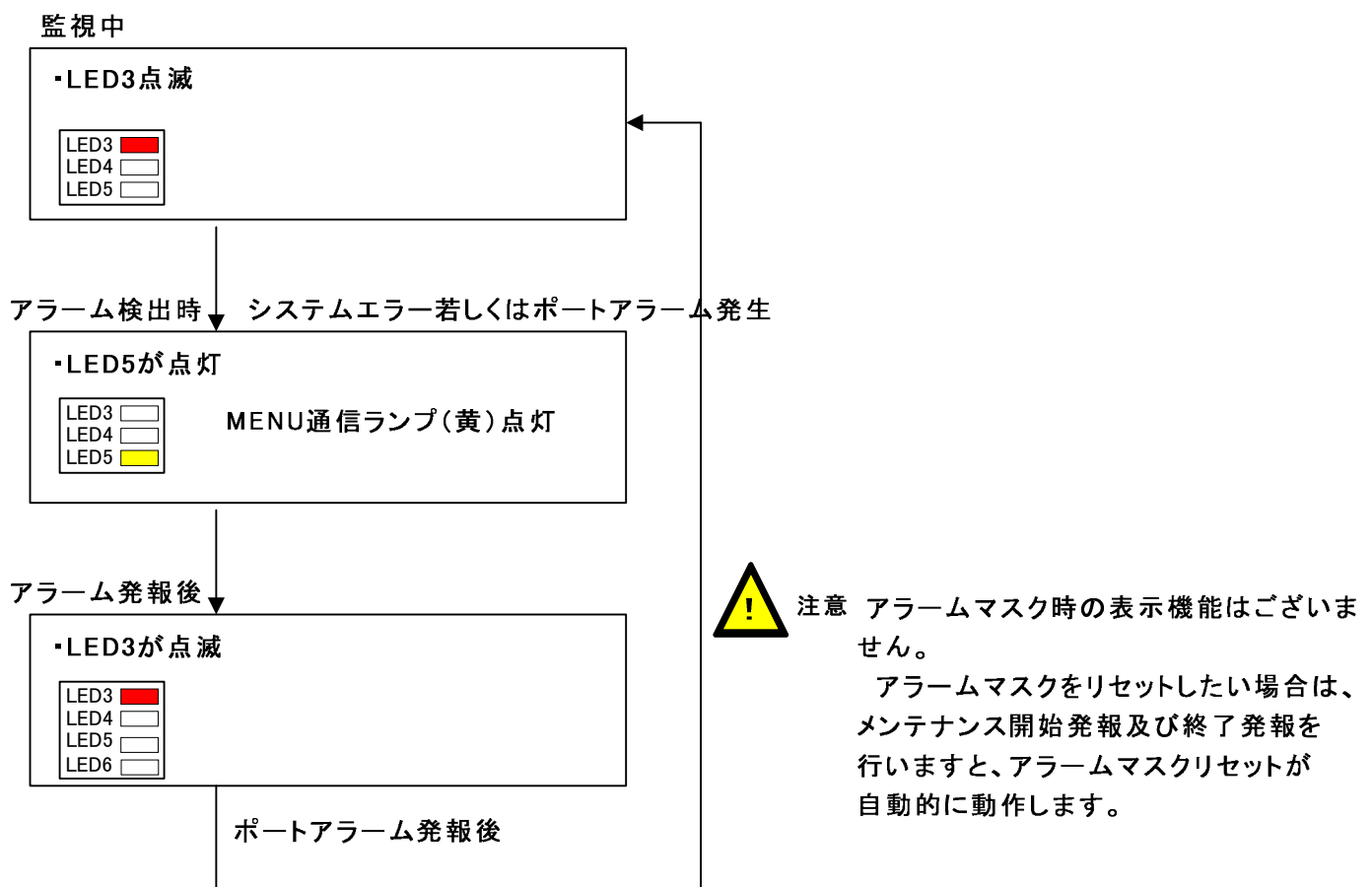


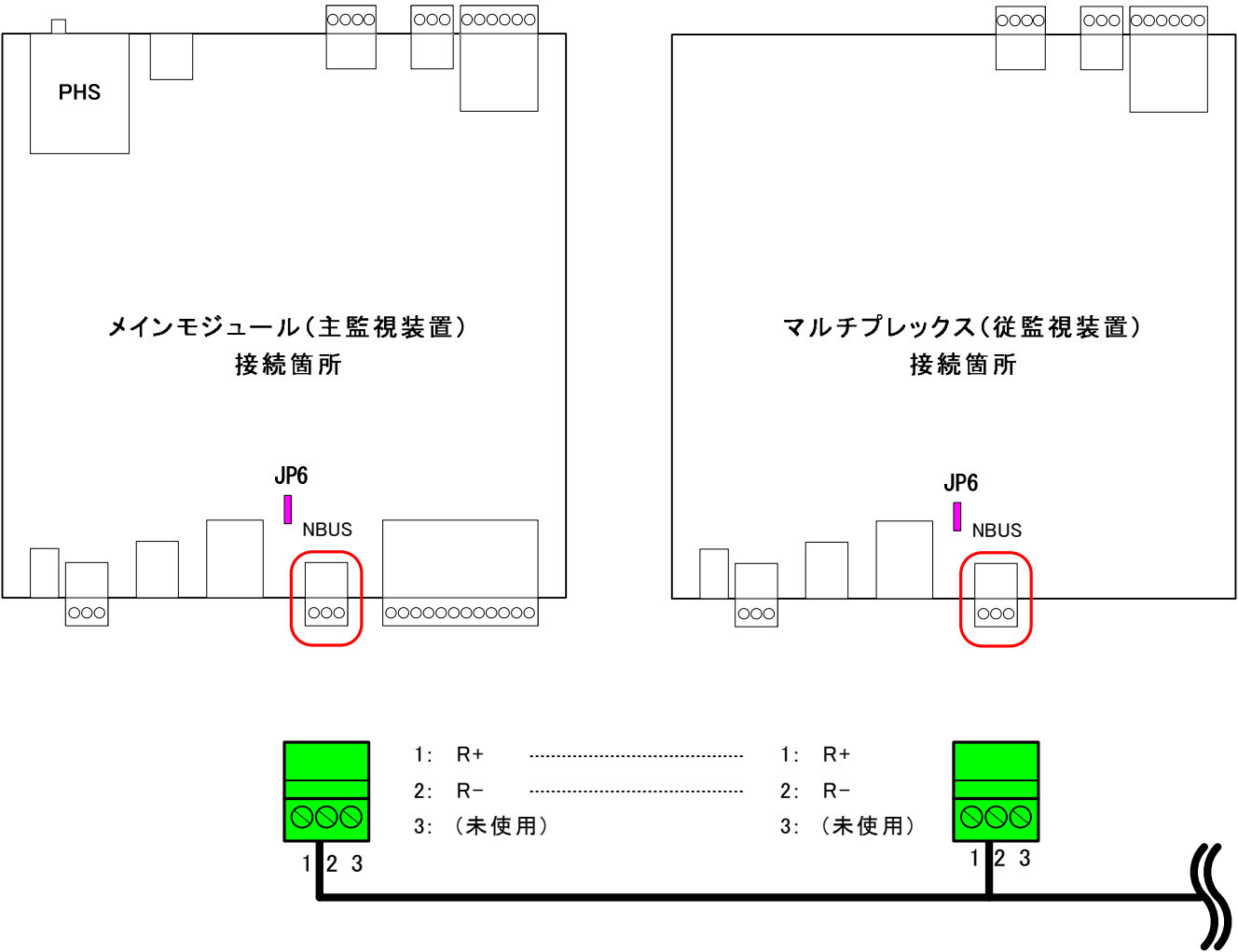
図4.8. 状態LEDの遷移(アラーム発生)

以上で主監視装置(メインモジュール)の動作ご説明は終了です。

5. マルチプレックスモジュール(従監視装置)の接続

5. 1 接続方法

- a. DC9V供給元の電源がOFF(ACアダプター未接続)になっている事を確認します。
- b. 配線材料2芯線はお客様にてご用意下さいます様お願い致します。
- c. 使用する線は、単線/撚線 AWG#28-#16 1.5mm2 被服剥き処理 6-7mm
- d. TB5(NBUS)端子の接続コネクタを外します。
- e. 下記の図の様に端子台配線します。
- f. 接続が正しいか確認します。
- g. DC9V供給電源をONします。



5. 2 ディップスイッチの設定

- a. DC9V供給元の電源がOFF(ACアダプター未接続)になっている事を確認します。
- b. 配線材料2芯線はお客様にてご用意下さいます様お願い致します。

機器名	ディップスイッチ (SW4)							
	1	2	3	4	5	6	7	8
マルチプレックス2	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
マルチプレックス3	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
マルチプレックス4	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

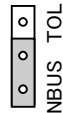
5. 3 ジャンパーピンの確認

a. 前ページの図を参照下さい。

JP6のシリアル1のジャンパー設定が下記のように設定されているかをご確認下さい。

b. 配線材料2芯線はお客様にてご用意下さいますようお願い致します。

JP6:シリアル1の用途を指定します



TOL: 設定ツールで使用する。

NBUS: NLE-BUSで使用する。



注意 また、メインモジュール(主監視装置)用のJP6がNBUS側に刺さっている事を確認して下さい。
刺さっていないとマルチプレックスモジュール(従監視装置)との通信が出来ません。

5. 4 設定ツールのパラメータ設定

a. パラメータ設定を行って下さい。設定方法につきましては、取り扱い説明書-設定ツール編(T-1 001 291J)を参照下さい。

b. 設定が必須な内容

1) 日付時刻の更新

2) 識別子(SakuraID)の登録 ※ メインモジュール(主監視装置)とは別のIDを設定下さい。

3) エレベーターの停止階床数

4) 入力ポートの設定極性

4-1) ポートアラームの通知 有効・無効

4-2) ポートアラームを検出させる条件の設定

4-3) ポートアラーム復旧 未使用・使用 復旧検出時間

5) 出力ポートの有無

5-1) 接点出力ON時間

6) 温度センサーの有無

6-1) 温度センサー上限温度・下限温度の設定

6-2) 電圧センサー(DC9V)上限電圧・下限電圧の設定

6-3) 電圧センサー(バッテリー)上限電圧・下限電圧の設定

7) ビルディングオプション(設備監視装置)の有無

7-1) ポートアラーム通知の設定(17~32)

7-2) 入力ポートの極性

7-3) ポートアラームを検出させる条件の設定

8) シリアルアラーム(ロジック)使用・未使用

8-1) アラーム通知 有効・無効 マスク時間設定

9) 保守モード

10) 定時発報

5. 5 監視信号の接続



注意

安全の為、エレベーター制御装置側の電源を切った状態で行ってください。
電源をONした状態で作業を行うと感電する危険があります。充分ご注意ください。

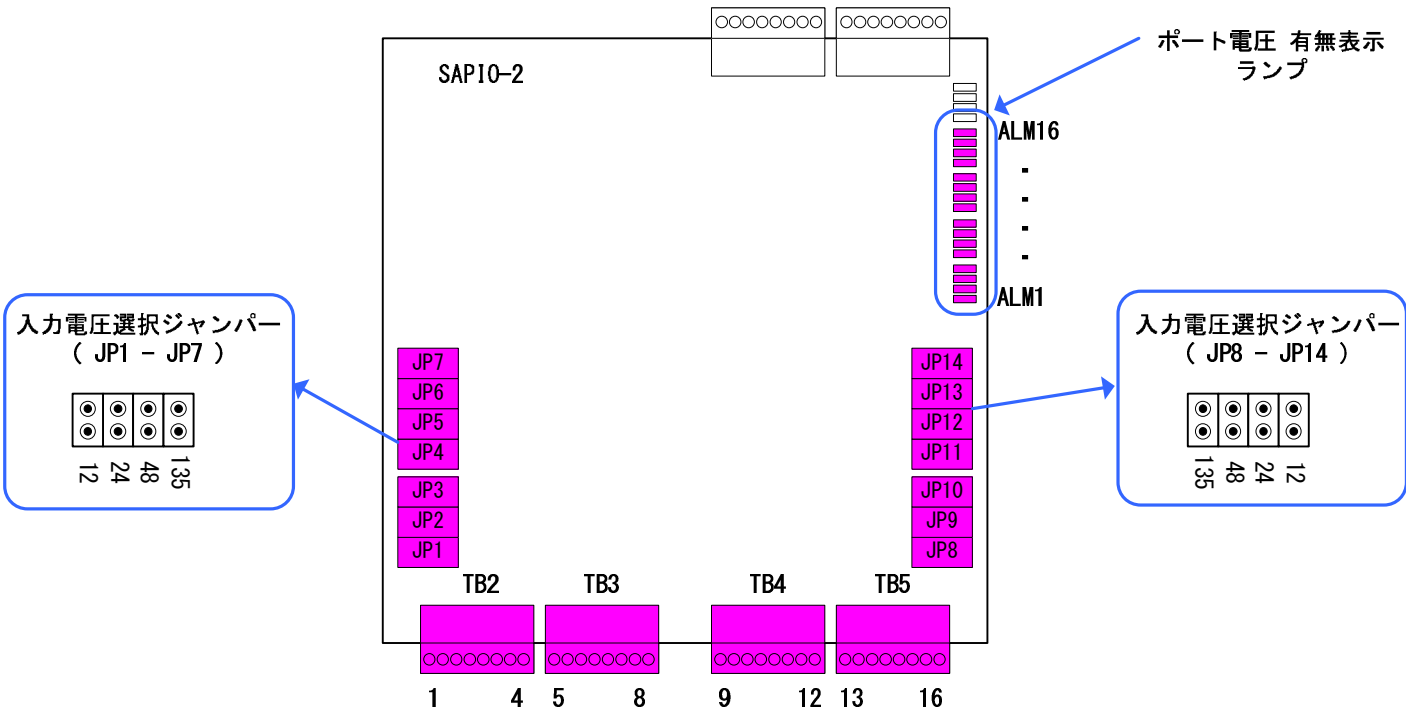


図3.5.1-1 監視信号接続関連図

1) 監視信号の電圧

- a. 表3.5.1-1に示すように接続可能な電圧はポートによって異なります。
- b. ポート1とポート9は、115V～230V専用です。(AC/DC)
- c. ポート1とポート9以外はジャンパーで入力電圧を選択できます。(AC/DC)
 - 12 : 6V～12V
 - 24 : 12V～24V
 - 48 : 30V～48V
 - 135 : 65V～135V



注意

- d. 監視する信号電圧に対応した選択をして下さい。誤った選択をした場合は、故障の原因となります。

表3.5.1-1 ポート毎の入力電圧

ポート	入力電圧	対応JP	端子番号	表示	ポート	入力電圧	対応JP	端子番号	表示
1	230V	-	TB2	ALM1	9	230V	-	TB4	ALM9
2	選択	JP1	TB2	ALM2	10	選択	JP8	TB4	ALM10
3	選択	JP2	TB2	ALM3	11	選択	JP9	TB4	ALM11
4	選択	JP3	TB2	ALM4	12	選択	JP10	TB4	ALM12
5	選択	JP4	TB3	ALM5	13	選択	JP11	TB5	ALM13
6	選択	JP5	TB3	ALM6	14	選択	JP12	TB5	ALM14
7	選択	JP6	TB3	ALM7	15	選択	JP13	TB5	ALM15
8	選択	JP7	TB3	ALM8	16	選択	JP14	TB5	ALM16

5. 6 マルチプレックスモジュール(従監視装置)の動作確認

5. 7 電源の投入

- a. DC9V供給電源をONします。

1) 初期化～監視中

① 電源を投入します

5.7項を参照

- ② 図5.7に示すようにLED3～LED5が点灯し最終的にLED4のみが7回点滅後、LED3が1回点滅すれば準備完了です。(監視中)

②-1 初期化中

LED3、LED4、LED5が順次点滅

②-2 監視中

LED4のみ7回点滅後、LED3が1回点滅

②-3 アラーム検出

LED6のみ7回点滅後、LED3が1回点滅

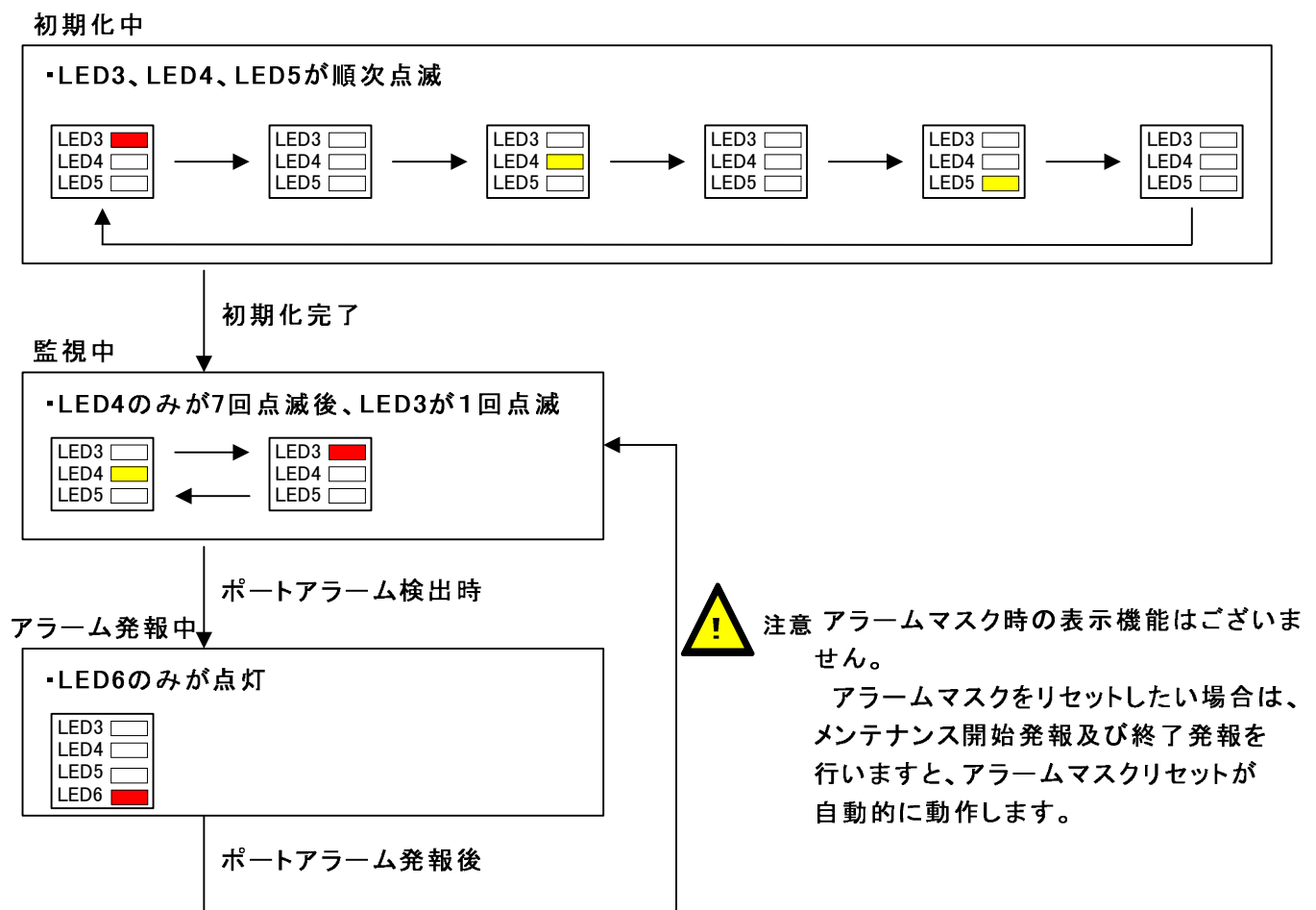


図5.7. 状態LEDの遷移(アラーム発生)

5. 8 保守開始・保守終了の確認

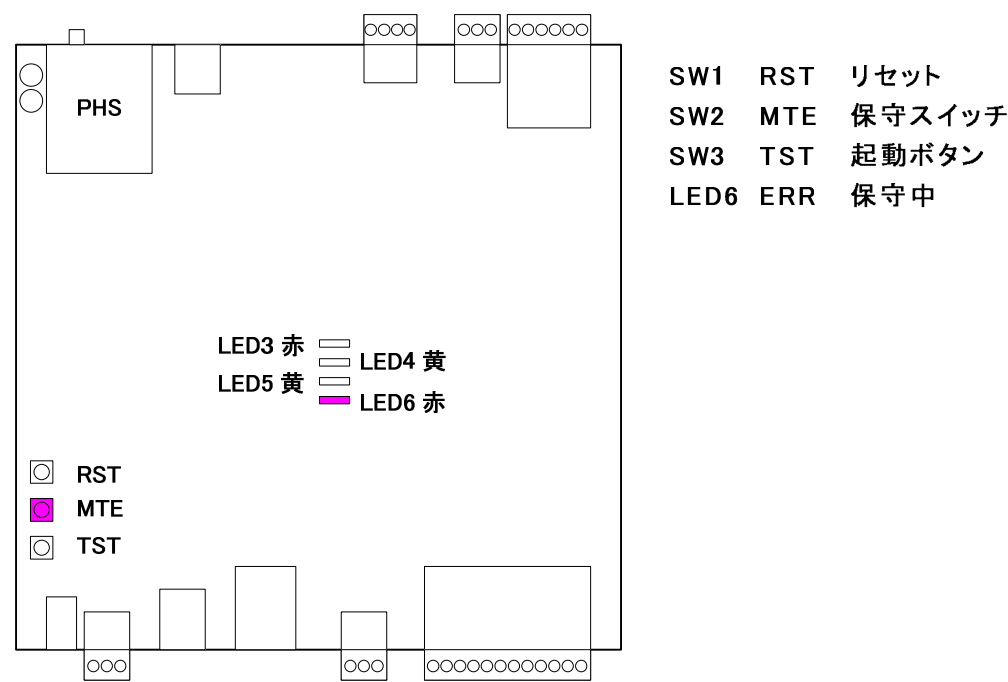


図4.5-1 実装図(保守スイッチ)

- 1) 保守開始
- a. 保守スイッチを規定時間(*1)以上押下します。

b. 保守スイッチを離した後、開始発報遅延時間(*2)を経過するとLED6が点灯しコールセンターへ発報します。

c. 通信が完了するとLED6は、点灯から点滅に切り替わり保守中は点滅表示となる。
- 2) 保守終了
- a. 保守中(LED6点滅中)に保守スイッチを規定時間(*1)以上押下します。

b. 保守スイッチを離した後、終了発報遅延時間(*3)を経過するとLED6の点滅が消えコールセンターへ発報します。

*1 保守スイッチ検出時間	標準5秒	設定ツールで変更可能
*2 保守開始発報遅延時間	標準5秒	設定ツールで変更可能
*3 保守終了発報遅延時間	標準30秒	設定ツールで変更可能

5. 9 ポートアラームの確認

- 1) アラームの生成
- a. 各ポートに接続した信号を用いてアラームを発生させます。

b. ポートアラームを検出するとコールセンターに発報します。

c. 一度発報したポートアラームは一定時間(*1)経過しないと発報しません。

*1 アラームマスク時間	標準60分	設定ツールで変更可能
--------------	-------	------------

5. 10 システム電源監視機能の確認(設定ツールでの114.オプションセンサー項目の事前設定が必要です。)

1) アラームの生成

a. 下記のオプションセンサーの設定を行う事で異常アラーム発報動作が出来ます。

- ① 温度センサー *1
- ② ACアダプタ(DC9V) *2
- ③ 内蔵バッテリー電圧 *3

が異常検出設定の値によって電圧及び温度が一定時間(*1)経過した時にアラームを発生させます。

b. 設定した各センサーのアラームを検出するとコールセンターに発報します。

工場出荷設定値は、下記の通りです。

温度センサー	0: 未使用
電圧センサー(DC9V)	1-使用
電圧センサー(内蔵バッテリー)	1-使用

*1 温度センサー 上限温度設定	標準50℃、16秒検知
温度センサー 下限温度設定	標準16℃、16秒検知
温度センサー 正常復帰検知時間	標準60秒
*2 電源センサー ACアダプタ電圧低下設定	標準6.5V、20秒検知
電源センサー ACアダプタ電圧復旧設定	標準7.0V、30秒検知
*3 電源センサー 内蔵バッテリー低下設定	標準6.1V、4分検知
電源センサー 内蔵バッテリー復旧設定	標準6.5V、30秒検知

(全て設定ツールで変更可能)

各項目を設定した後、アラーム発報テストを行って下さい。手順は、項目5. 6 マルチプレックスモジュール(従監視装置)の動作確認を参照下さい。



注意

『本装置には、P54/58の表 付録 1-2 一般仕様に記載してある通り、内蔵バッテリーはトリクル式充電機能を付加したバッテリーを採用しておりますので、DC9Vが接続(通電)状態で、内蔵バッテリーが未接続の場合、バッテリーへの充電電圧(7.8V前後)が表示されますので、ご注意下さい。』

6. ビルディングオプション(設備監視装置)の接続

6. 1 概要説明

ビルディングオプション基板はメインモジュール、マルチプレックスモジュールの直下に接続されます。

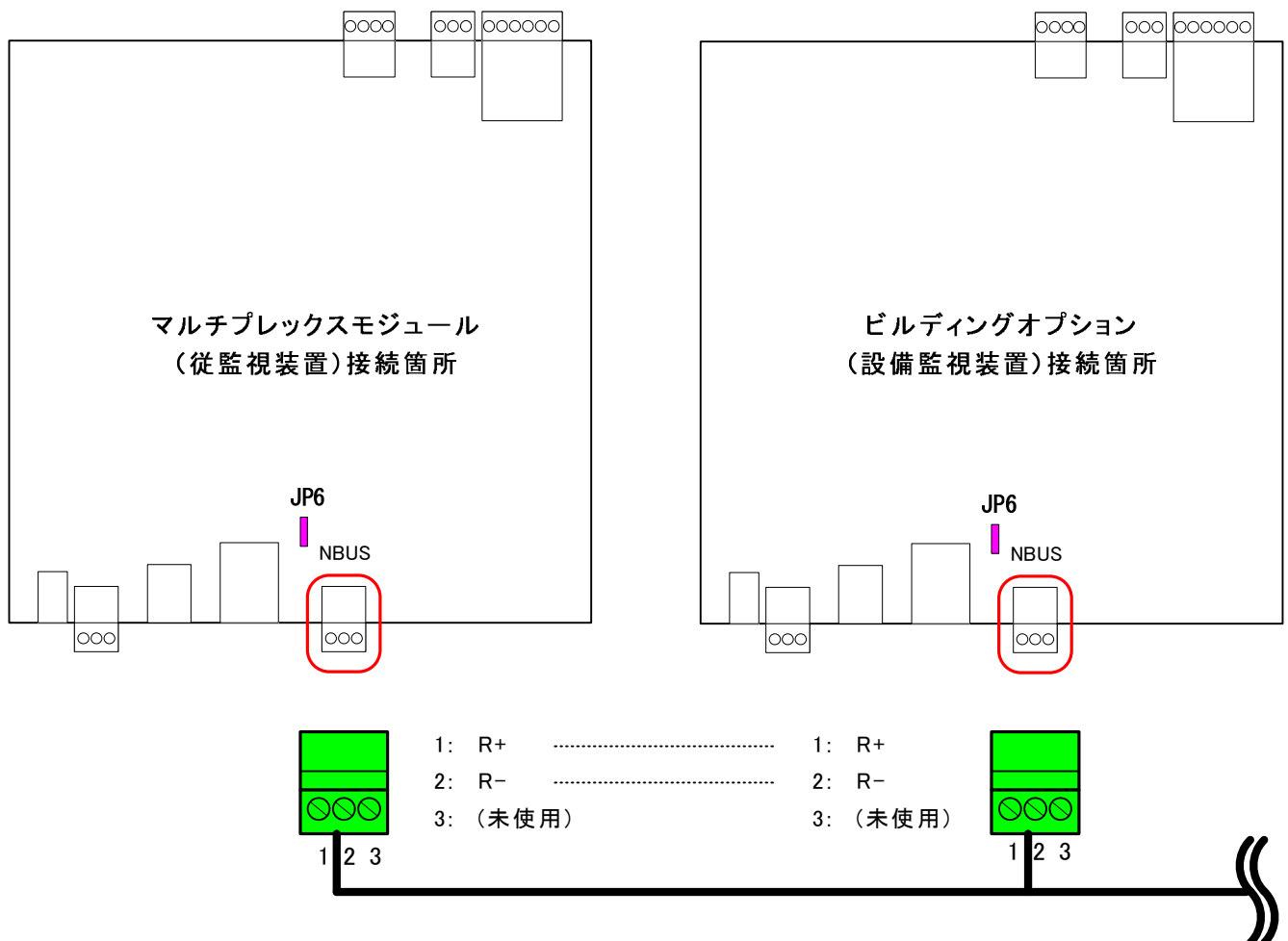
1つのメインモジュールに2つのビルディングオプションを接続することは出来ません。

また、ビルディングオプションには、SakuraIDを持ちません。温度センサーや接点出力機能・システム電源監視機能もありません。

もし、接続を希望される場合は、メインモジュール、マルチプレックスモジュールへ接続下さい。

6. 2 接続方法

- DC9V供給元の電源がOFF(ACアダプター未接続)になっている事を確認します。
- 配線材料2芯線はお客様にてご用意下さいませようお願い致します。
- 使用する線は、単線/撚線 AWG#28-#16 1.5mm2 被服剥き処理 6-7mm
- TB5(NBUS)端子の接続コネクタを外します。
- 下記の図の様に端子台配線します。
- 接続が正しいか確認します。
- DC9V供給電源をONします。



6. 3 ディップスイッチの設定

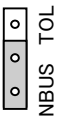
- a. DC9V供給元の電源がOFF(ACアダプター未接続)になっている事を確認します。
- b. 配線材料2芯線はお客様にてご用意下さいます様お願い致します。

機器名	ディップスイッチ (SW4)							
	1	2	3	4	5	6	7	8
ビルディングオプション 1	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
ビルディングオプション 2	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
ビルディングオプション 3	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
ビルディングオプション 4	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

6. 4 ジャンパーピンの確認

- a. 前ページの図を参照下さい。JP6のシリアル1のジャンパー設定が下記の様に設定されているかをご確認下さい。
- b. 配線材料2芯線はお客様にてご用意下さいます様お願い致します。

JP6:シリアル1の用途を指定します



- TOL: 設定ツールで使用する。
- NBUS: NLE-BUSで使用する。

6. 5 設定ツールのパラメータ設定

- a. 特にパラメータ設定を行う必要はありません。

6. 6 監視信号の接続

ビルディングオプションモジュールの監視信号の接続をして下さい。接続方法は、項目5. 5 マルチプレックスモジュールの監視信号の接続と同じです。
接続信号の入力電圧設定ジャンパーピンの設定をして下さい。

6. 7 ビルディングオプションモジュールの動作確認

項目5. 6の動作確認を参照下さい。表示ランプはマルチプレックスと同じです。

以上でビルディングオプションモジュールの説明を終わります。

7. オプション接続

7.1 外付けメンテナンス スwitchの接続（Sakura6 Plus用外付けメンテナンスSwitchは有償オプション）

1) Switchとピンの接続

a. メンテナンス スwitchキットを下記の図の様にコネクタを接続します。（PIOは下段に取付）

b. メンテナンス スwitchキット付属のジャンパーピンを下記の2カ所に挿す。

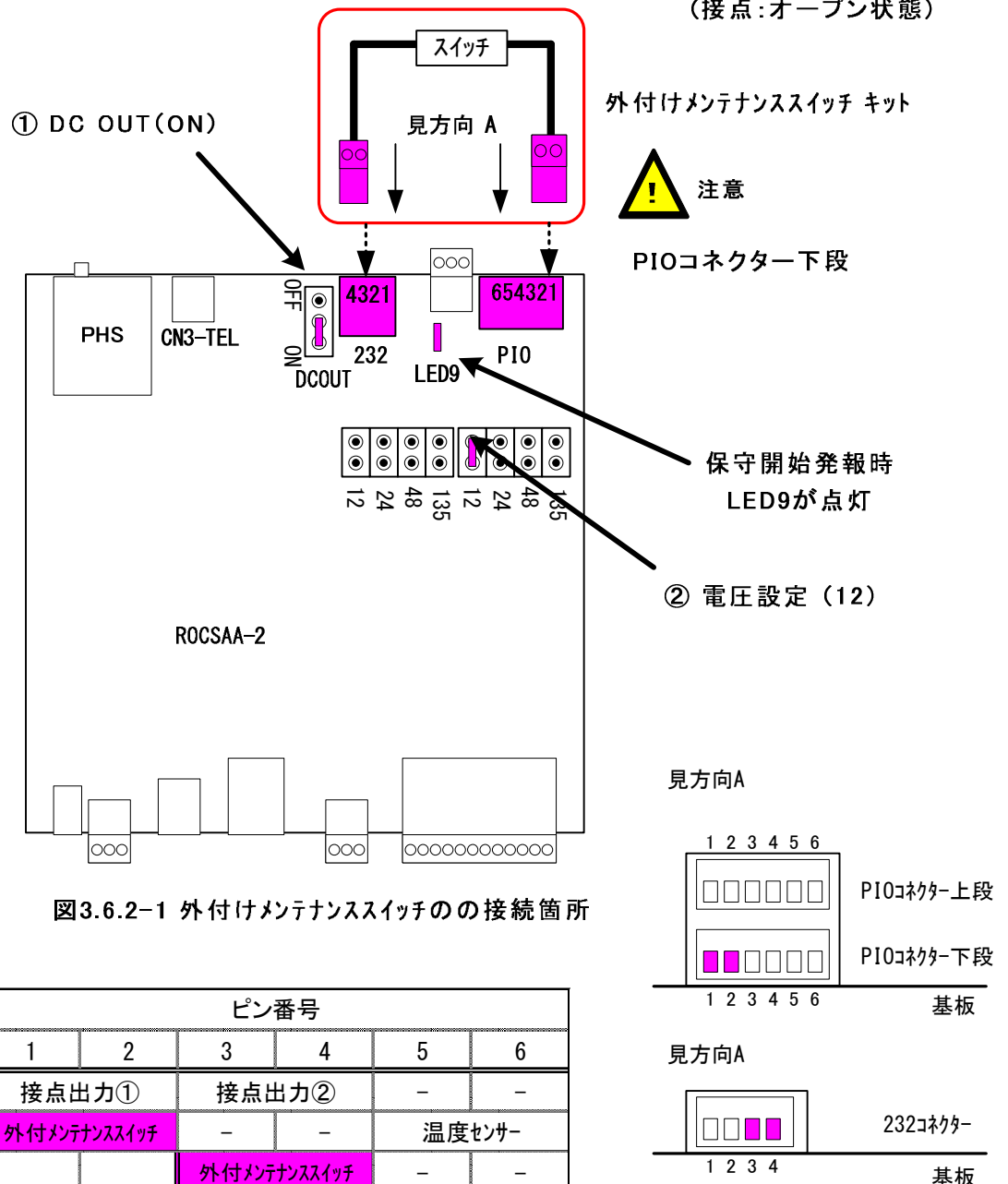
- ① ジャンパーピンDCOUTをONにジャンパーピンを挿す。
- ② 電圧設定の12にピンを挿す。

2) 設定ツールでのパラメータ設定

a. 設定ツールにて『メンテナンスSwitch形式』と『メンテSwitch信号形式』の設定を外付けメンテナンスSwitchに切り替え下さい。詳細は「T001 291J Sakura6 Plus取扱い説明書-設定ツール編」を参照して下さい。

Note: Switchを「O」側に倒すと、保守開始発信遅延時間後にコールセンターの監視PCに「保守開始」を発信します。
（LED9が点灯）（接点：短絡ショート状態）

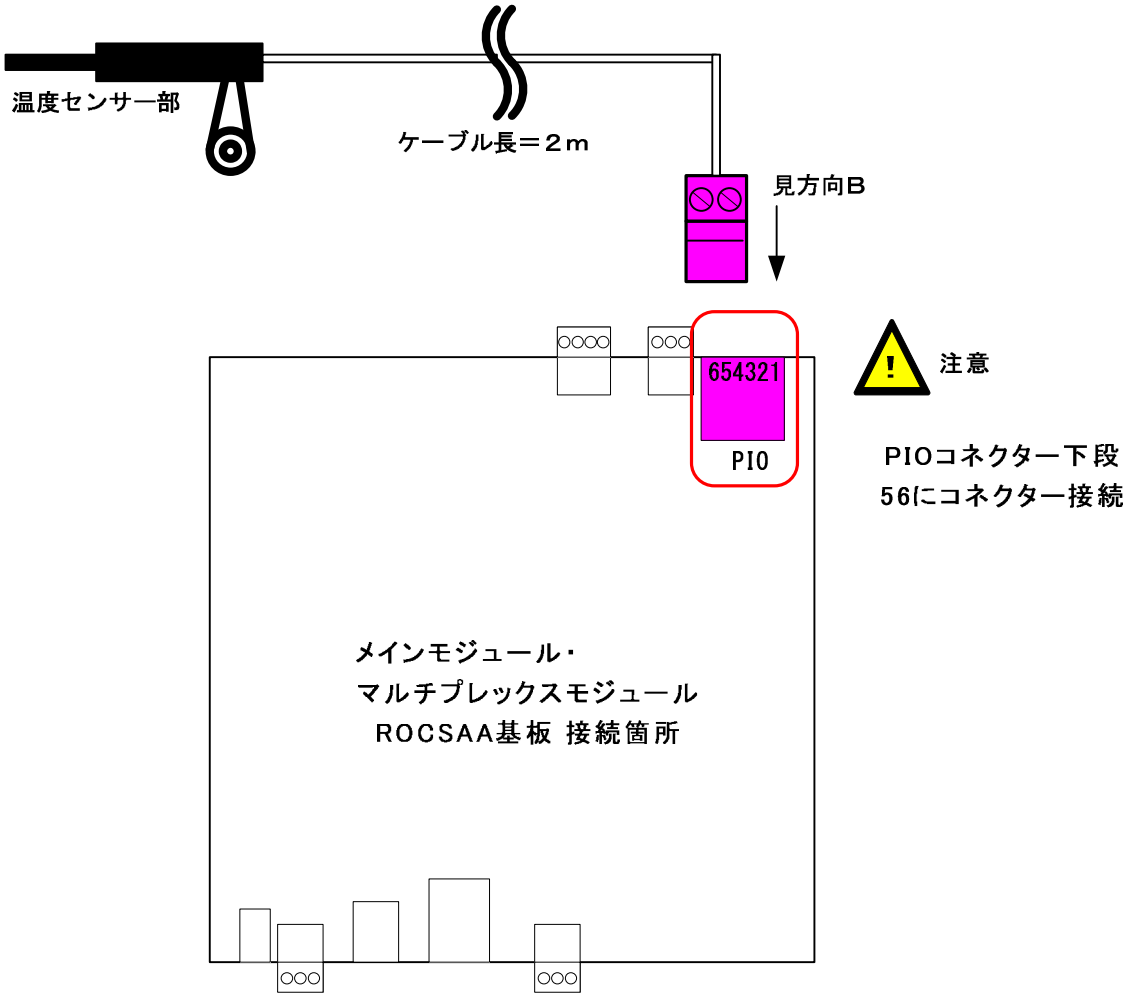
Switchを「I」側に倒すと、保守終了発信遅延時間後にコールセンターの監視PCに「保守終了」を発信します。
（接点：オープン状態）



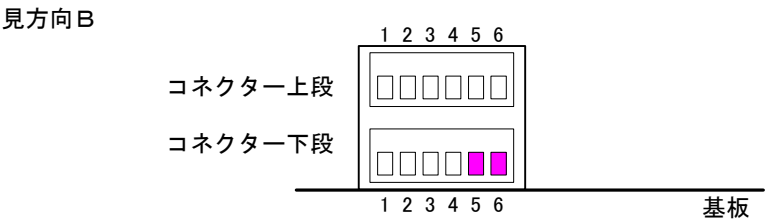
コネクタ	ピン番号					
	1	2	3	4	5	6
PIOコネクタ上段	接点出力①		接点出力②		-	-
PIOコネクタ下段	外付けメンテナンスSwitch		-	-	温度センサー	
232コネクタ			外付けメンテナンスSwitch		-	-

7. 2 温度センサーの接続（Sakura6 Plus用温度センサーは有償オプション）
メインモジュール（主監視装置）及び各マルチプレックスモジュール（従監視装置）へ温度センサー（オプション）を取り付ける事が出来ます。 接続方法は、下記の接続図を参照下さい。

- 1) 設定ツールでのパラメータ設定
- a. 設定ツールにて『温度センサー』の設定をNLE標準センサーに切り替え下さい。
詳細は「T001 291J Sakura6 Plus取扱い説明書-設定ツール編」を参照して下さい。



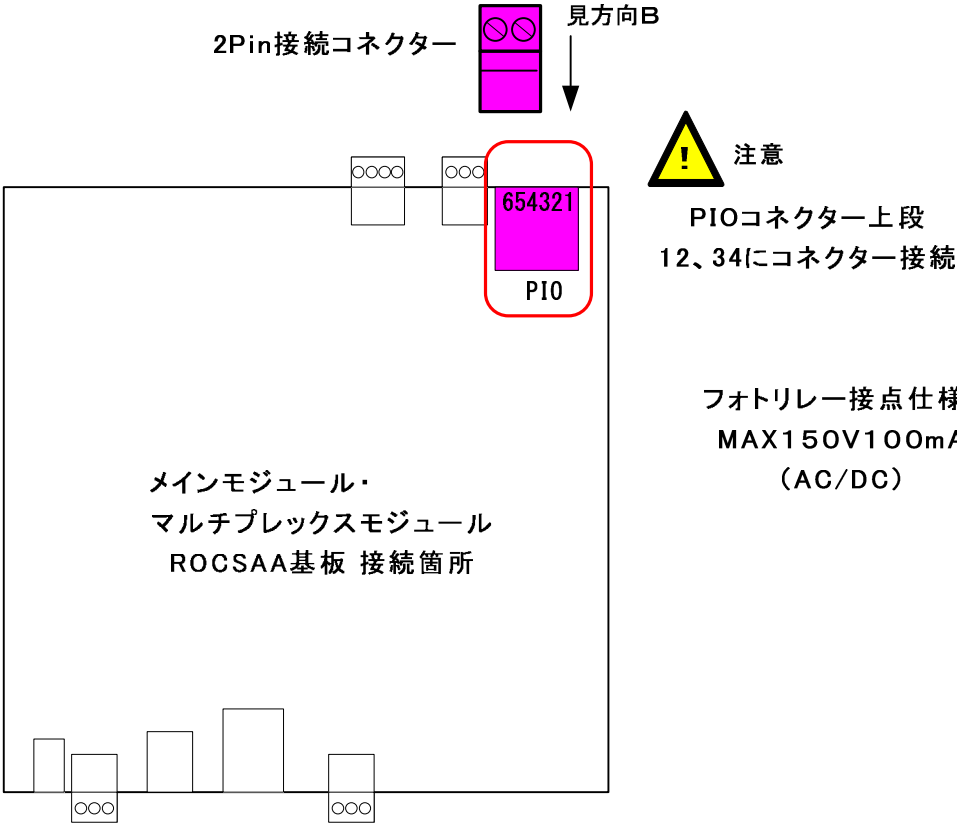
コネクター	ピン番号					
	1	2	3	4	5	6
PI0コネクター上段	接点出力①		接点出力②		-	-
PI0コネクター下段	外付メンテナンススイッチ		-	-	温度センサー	



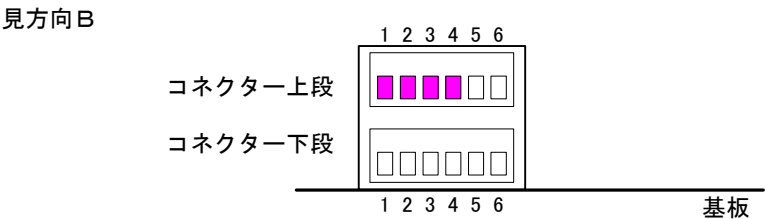
7.3 出力ポート接点①～②の接続（Sakura6 Plus 入出力用2Pinコネクタは有償オプション）

メインモジュール及び各マルチプレックスモジュールに出力ポートを合計6点（ROCSAA-2基板2点、SAPIO-2基板4点の合計6点）を接続出来ます。

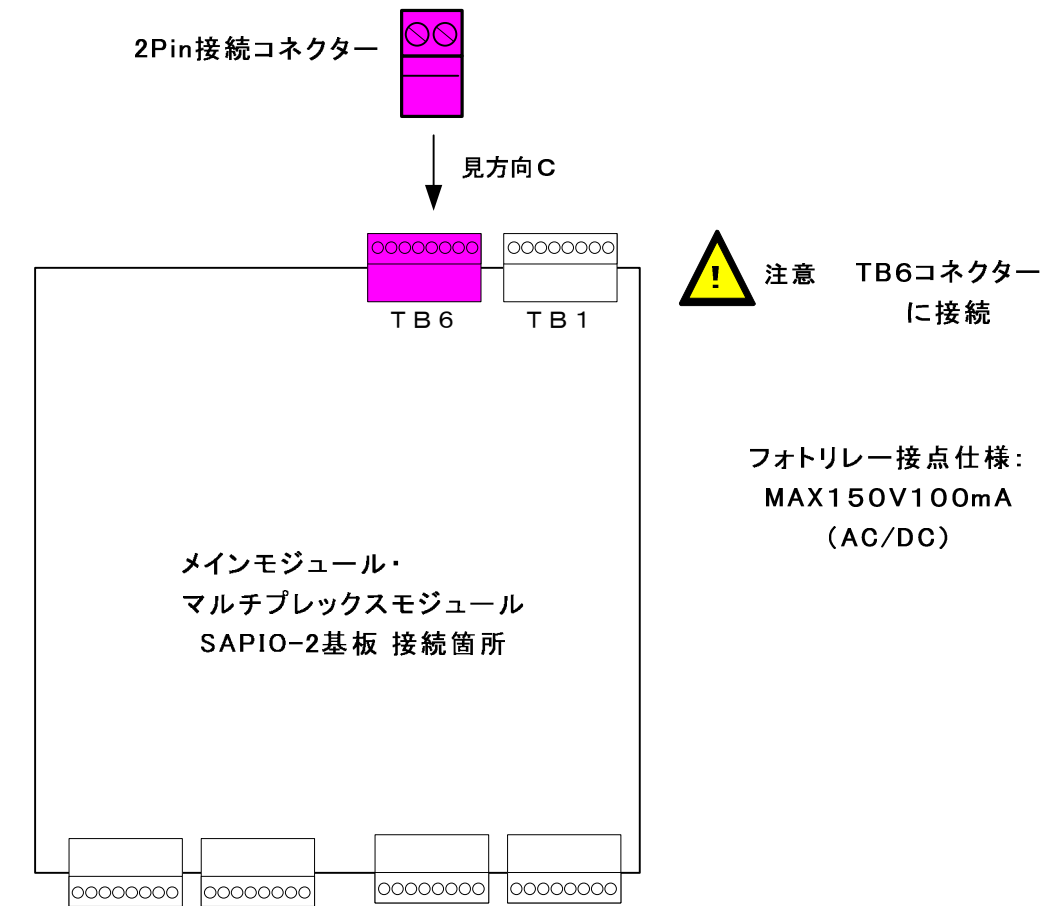
- 1) 接続コネクタ
- a. 工場出荷時には、2Pin接続コネクタ（オス）は、付属されておりません。接続をご希望される方は、弊社営業部・カスタマーサービスへお問い合わせ下さい。有償にてコネクタを発送致します。
- 2) 設定ツールでのパラメータ設定
- a. 設定ツールにて『出力ポートの設定』の項目を有効に切り替え下さい。
詳細は「T001 291J Sakura6 Plus取扱い説明書-設定ツール編」を参照して下さい。



コネクタ	ピン番号					
	1	2	3	4	5	6
PIOコネクタ上段	接点出力①		接点出力②		-	-
PIOコネクタ下段	外付メンテナンススイッチ		-	-	温度センサー	

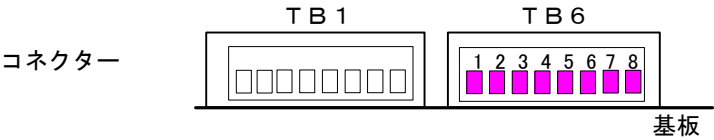


7. 4 出力ポート接点③～⑥接続（Sakura6 Plus 入出力用2Pinコネクタは有償オプション）
- メインモジュール（主監視装置）及び各マルチプレックスモジュール（従監視装置）へ出力ポートを合計6点（ROCSAA-2基板2点、 SAPIO-2基板4点の合計6点）を接続出来ます。
- 2) 設定ツールでのパラメータ設定
- a. 設定ツールにて『出力ポートの設定』の項目を有効に切り替え下さい。
- 詳細は「T001 291J Sakura6 Plus取扱い説明書-設定ツール編」を参照して下さい。



コネクタ	ピン番号							
	1	2	3	4	5	6	7	8
TB6コネクタ	接点出力③	接点出力④	接点出力⑤	接点出力⑥				

見方向C

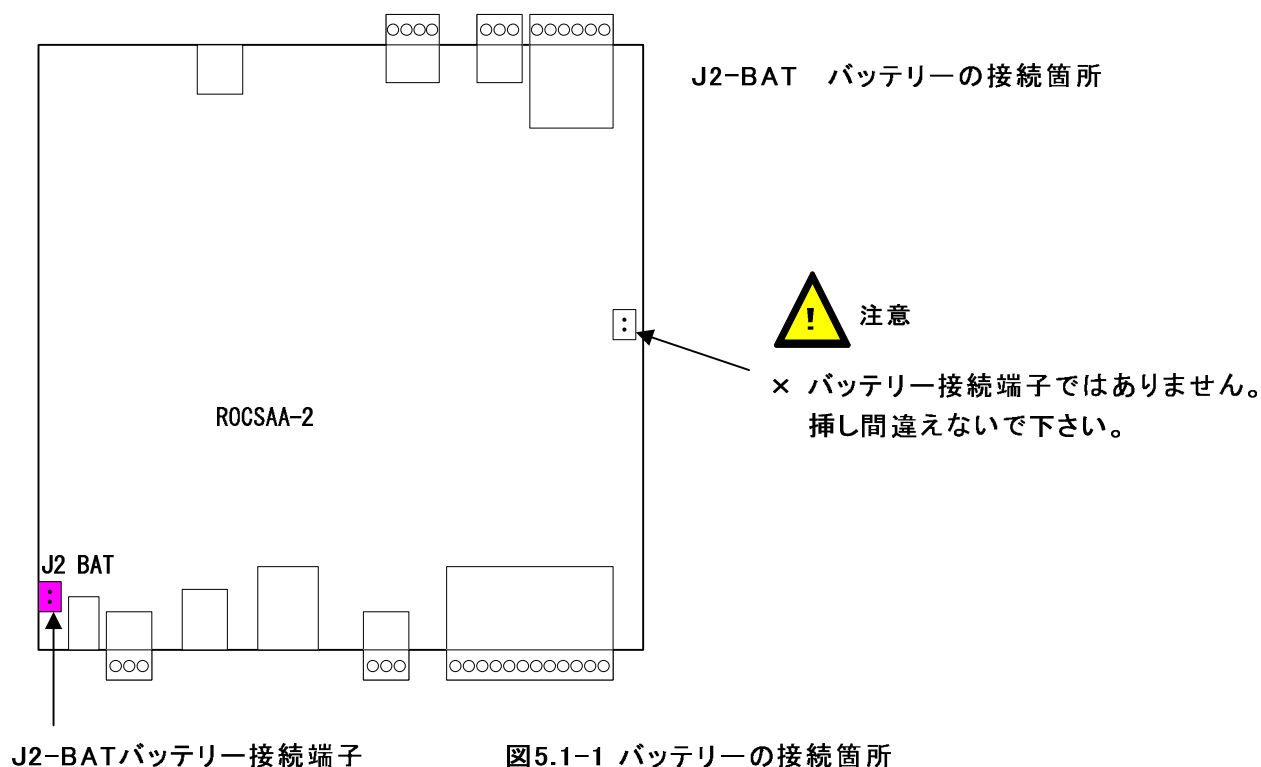


8. 終了作業

1) バッテリーの接続

ACアダプター添付品(DS6B-*-*B*)の場合、J2-BATに付属のバッテリーを接続します。

注意) バッテリーは消耗品です、2年をめどに交換をお願いします。



2) 上蓋を閉じる

本装置の上蓋を閉じます。

9. DTMF設定作業

9. 1 設定手順

1) 着信操作

- ① 電話機(携帯電話)より本装置の電話番号をダイヤルする。
- ② 通話状態になるのを待つ。

2) ログイン操作

- ① ##09999 を入力します。
本装置は結果を音声で応答します。

3) 情報の設定操作

##1から##9のコマンドを使用して情報の設定を行います。

##1	非常音声連絡先電話番号1	必須
##2	非常音声連絡先電話番号2	任意
##3	データ通報先電話番号1	必須
##4	データ通報先電話番号2	任意
##5	TaroID(DTMF-ID)	任意
##6	非常音声発信待ち時間	任意
##7	Taroモード	任意(モデムタイプでDP(パルス)の場合は必須)
##8	かご内アナウンス録音	任意
##9	現場名アナウンス録音	必須

アナウンス録音以外の設定は設定ツールでも可能です。

4) 回線の切断

必要な設定が完了すると、通話を終了します(オンフック)。

標準的な通話時間は約4分です、通話時間を経過すると本装置は回線を自動切断します。

通話延長操作を行う事で最大8分間の通話が可能です。(**901**)

9. 2 設定コマンド

【##0】ログイン

機能 設定モードにログインします。
 入力 ##09999
 備考 パスワードの後ろに*#を入力する必要はありません。

【##1】非常音声連絡先電話番号① 必須

【##2】非常音声連絡先電話番号② 任意

【##3】データ通報先電話番号① 必須

【##4】データ通報先電話番号② 任意

機能 非常音声連絡先電話番号①、②を登録します。
 データ通報先電話番号①、②を登録します。

形式 ##1ttt...ttt * #

##2ttt...ttt * #

##3ttt...ttt * #

##4ttt...ttt * #

ttt...ttt: 非常音声連絡先電話番号

最大20桁(0~9、#)

#は桁間ポーズ3secを表します。

入力例 ##10454781790*# 045-478-1790を非常音声連絡先電話番号①に登録。

##30454781792*# 045-478-1792をデータ通報先電話番号①に登録。

備考 未設定で出荷

【##5】TaroID(DTMF-ID) 任意

機能 TaroIDを登録します。

形式 ##5ttt...ttt * #

ttt...ttt: TaroID

最大16桁の数字

入力例 ##51112345*# 1112345をTaroIDに登録。

備考 未設定で出荷。

TaroIDは利用者が任意に設定できる、本装置の識別番号です。

非常通話発報時に自動でコールセンター側に通知します。

利用者はこの識別番号を現場を特定する為に使用することができます。

本装置では、後で述べる「現場名アナウンス」でも現場を特定できます。

【##6】非常音声発信待ち時間 任意

機能 非常音声発信待ち時間を登録します。

形式 ##6nnn * #

nnn: 非常音声発信待ち時間(秒)を3桁の数字(1~255)で指定

入力例 ##610*# 10秒を指定。

備考 出荷時の値は6秒。

【##7】Taroモード

任意

機能 Taroモードを設定します。

形式 ##7nmljk*#

n: 電話回線種別の指定 (PHS回線では無効)

0=PB-Tone

1=DP 20PPS

2=DP 10PPS

m: 発信機能の指定

0=# #6で指定した時間内に親機が応答したら非常音声発信を行わない。

1=親機応答の有無に関わらず常に非常音声発信を行う。

2=本装置では指定不可能。(Taro4機能)

l: 着信時の応答方法の指定

0=音声応答。

1=自動判別。

2=データ応答。

3=着信拒否。

j: 電源制御の指定 (本装置では無効)

0=未使用。

1=工場出荷。

k: 非常音声発信時のブザーとアナウンスの制御の指定

0=ブザー無し、アナウンス有り

1=ブザー有り、アナウンス有り

2=ブザー有り、アナウンス無し

3=ブザー無し、アナウンス無し

4=ブザー無し、アナウンス無し

入力例 ##710111*#

備考 出荷時の値は“01111”です。

n = 0:PB-Tone

m = 1:親機応答の有無に関わらず常に非常音声発信を行う

l = 1:自動判別

j = 1:工場出荷

k = 1:ブザー有り、アナウンス有り

着信時の応答方法に下記の値を指定した場合は、外部電話機からの着信による設定変更はできません。

l=2 (データ応答)

l=3 (着信拒否)

この場合、非常通報発報を行って、相手電話機よりログイン操作をすれば設定変更可能です。

【##8】 かが内アナウンス

任意

機能 かが内アナウンスを録音

形式 ##8

入力例 ##8

動作 ① ##8を入力すると音声ガイダンスが受話器より聞こえる。

② "ピー"という音が聞こえたら録音開始

③ 送話器よりの音声を7秒間録音する。

備考 出荷時の録音内容は、下記の通り

『ただいまセンターへ接続中です。しばらくお待ち下さい。』

出荷時の録音内容に戻すには「**3800*#」を入力して下さい。

【##9】 現場名アナウンス

必須

機能 現場名アナウンスを録音

形式 ##9

入力例 ##9

動作 ① ##9を入力すると音声ガイダンスが受話器より聞こえる。

② "ピー"という音が聞こえたら録音開始

③ 送話器よりの音声を12秒間録音する。

備考 出荷時は録音されていません(無音)。

【**3800】 かが内アナウンスの消去

任意

機能 かが内アナウンスを出荷時の録音内容に戻す

形式 **3800*#

入力例 **3800*#

動作 かが内アナウンスを出荷時の録音内容に戻す。『只今センターに接続中です。暫くお待ち下さい。』

備考 新たに録音する場合は「##8」を使用して下さい。

【**381X】 かが内アナウンス切り替え設定

任意

機能 かが内アナウンスを設定します。

形式 **381X*#

入力例 1) **3810*# 標準＝只今センターへ接続中です。暫くお待ち下さい。

2) **3811*# ユーザー設定＝ユーザー録音内容

動作 かが内アナウンスを出荷時の録音内容に設定する。もしくは、ユーザーで録音した内容に切り替える

備考 新たに録音する場合は「##8」を使用して下さい。

【**30n】 非常通話発報先電話登録機能③～⑤ 及び保守中通通報先電話登録機能①～② 任意

機能 非常通話③～⑤及び保守中①～②発報先電話番号の登録を行います。n=3～7

形式 **30n*#

入力例 1) **3030454781790*# 発報先登録電話番号③に045-478-1790を登録。

2) **3040454781790*# 発報先登録電話番号④に045-478-1790を登録。

3) **3050454781790*# 発報先登録電話番号⑤に045-478-1790を登録。

4) **3060454781793*# 保守中通話先登録電話番号①に045-478-1793を登録。

5) **3070454781793*# 保守中通話先登録電話番号②に045-478-1793を登録。

動作 非常通話発報先電話番号登録③～⑤、保守中通通報先電話登録機能①～②を行います。

備考

【**31n】データ通信発報先電話登録機能③～⑤及び定時発報先電話登録機能①～② 任意

機能 データ通信③～⑤及び定時発報①～②発報先電話番号の登録を行います。 n=3～5、8～9

形式 * * 31n * #

入力例 1)**3130454781792** 発報先登録電話番号③に045-478-1792を登録。
 2)**3140454781792** 発報先登録電話番号④に045-478-1792を登録。
 3)**3150454781792** 発報先登録電話番号⑤に045-478-1792を登録。
 4)**3180454781794** 定時発報先登録電話番号①に045-478-1794を登録。
 5)**3190454781794** 定時発報先登録電話番号②に045-478-1794を登録。

動作 データ通信発報先③～⑤、定時発報先①～②電話番号登録を行います。

備考

【**800n】##1～##9設定内容を音声再生 任意

機能 ##1～##9設定内容を音声再生 n=1～9

形式 * * 800n * #

入力例 1)**8001** 非常通話先登録電話番号①の登録番号をアナウンス。
 2)**8002** 非常通話先登録電話番号②の登録番号をアナウンス。
 3)**8003** データ発報先登録電話番号①の登録番号をアナウンス。
 4)**8004** データ発報先登録電話番号②の登録番号をアナウンス。
 5)**8005** TaroIDの登録番号をアナウンス。
 6)**8006** 非常音声発信待ち時間のアナウンス。
 7)**8007** Taroモードのアナウンス。
 8)**8008** かご内アナウンスのアナウンス。
 9)**8009** 現場名アナウンスのアナウンス。

動作 ##1～##9設定内容を音声再生します。

備考

【**830n】非常通話及び保守中通話発報先電話番号を音声再生

機能 **830nの設定内容を音声再生 n=3～7

形式 * * 830n * #

入力例 1)**8303** 非常通話先登録電話番号③の登録番号をアナウンス。
 2)**8304** 非常通話先登録電話番号④の登録番号をアナウンス。
 3)**8305** 非常通話先登録電話番号⑤の登録番号をアナウンス。
 4)**8306** 保守中通話電話番号①の登録番号をアナウンス。
 5)**8307** 保守中通話電話番号②の登録番号をアナウンス。

動作 非常通話及び保守中の通話発報先電話番号をアナウンスします。

備考

【**831n】データ通信及び保守中通話発報先電話番号を音声再生 任意

機能 データ通信発報先電話番号を音声で再生します。n=3～5、8～9

形式 * * 831n * #

入力例 1)**8313*# データ発報先登録電話番号③を音声で再生。
 2)**8314*# データ発報先登録電話番号④を音声で再生。
 3)**8315*# データ発報先登録電話番号⑤を音声で再生。
 4)**8318*# 定時発報先登録電話番号①を音声で再生。
 5)**8319*# 定時発報先登録電話番号②を音声で再生。

動作 データ通信及び定時発報先電話番号をアナウンスします。

備考

【**838n】かごアナウンス設定内容をアナウンスにてお知らせ 任意

機能 『かご内アナウンスの消去』『かご内アナウンス切り替え設定』内容をアナウンスでお知らせします。

形式 * * 838n * #

入力例 1)**8380*# ##9を録音している場合は、『かご内アナウンスは録音されています』。
 ##9を録音していない場合は、『かご内アナウンスは録音されていません』。
 2)**8381*# **381が0の場合、『かご内アナウンス種別は0です。』と再生します。
 **381が1の場合、『かご内アナウンス種別は1です。』と再生します。

動作 **380と**381の設定内容を音声でお知らせします。

備考

【**8701n】メンテナンスモード取得 アナウンス

機能 リモート設定(DTMF設定)で現在、メインモジュール及びマルチフレックスモジュールのメンテナンス状況をお知らせします。

形式 * * 8701n * #

入力例 1)**87011*# 1 メインモジュールの点検スイッチ状態を音声アナウンス。
 2)**87012*# 2 マルチフレックスモジュール2の点検スイッチ状態を音声アナウンス。
 3)**87013*# 3 マルチフレックスモジュール3の点検スイッチ状態を音声アナウンス。
 4)**87014*# 4 マルチフレックスモジュール4の点検スイッチ状態を音声アナウンス。

動作 監視中⇒『メンテナンスして下さい。』とアナウンスされ監視中になっています。

保守中⇒『メンテナンスしています。』とアナウンスされ保守中になっています。

備考

【**901】通話時間延長機能

機能 通話中時間を4分延長

形式 * * 901 * #

入力例 **901*#

動作 直接通話中にこのコマンドをコールセンター側の電話機から設定操作をすると4分間通話時間が延長される。(操作は1回のみ有効)

備考

【**320nn】非常ボタン押し下げ検知時間の設定

機能 リモート設定で非常ボタン押し下げ時間を設定。

形式 * * 320nn * #

入力例 **32010*# 非常ボタン押下時間10秒を設定

動作 かご内非常ボタンを押した時にカウントされて押下確定するまでの検知時間。もし、設定時間内の押し下げ時間であれば、発報動作にならない。(いたずら防止機能)

備考 押下ワンショットで保持されるインターホンに付いては、有効ではありません。
 出荷時は2秒に設定されています。

【**371n】 発報優先順位設定 任意

機能 発報優先順位設定
 形式 **371n*#
 入力例 1)**3710*# データ発報後、直話通話発報。
 2)**3711*# 直接通話のみ。
 3)**3712*# 直接通話後、データ発報。
 動作 非常ボタン押し下げ時にアラームデータと直話の発報優先順位を設定。
 備考 出荷時は3710に設定されています。

【**372n】 現場名通知種別設定 任意

機能 現場名通知種別設定
 形式 **372n*# n=0~3
 入力例 1)**3720*# 0:手動。
 2)**3721*# 1:自動(発信)。
 3)**3722*# 2:自動(着信)。
 4)**3723*# 3:自動(双方向)。
 動作 装置から発報呼出し後に接続した際に現場名アナウンスを自動/手動で再生させる。
 備考

【**8320】 非常ボタン押し下げ検知時間を音声アナウンスでお知らせ 任意

機能 非常ボタン押し下げ検知時間を音声アナウンスでお知らせします。
 形式 **8320*#
 入力例 **8320*#
 動作 非常ボタン押し下げ確定時間を音声アナウンスでお知らせします。
 備考

【**8371】 発報優先順位を音声アナウンスでお知らせ 任意

機能 発報優先順位を音声アナウンスでお知らせします。
 形式 **8371*#
 入力例 **8371*#
 動作 **371で設定内容を音声アナウンスでお知らせします。
 備考

【**8372】 現場名通知種別を音声アナウンス 任意

機能 現場名通知種別を音声でアナウンスします。
 形式 **8372*#
 入力例 **8372*#
 動作 **372で設定内容を音声アナウンスでお知らせします。
 備考

【**701】 リモートメンテナンスモード切替 任意

機能 DTMFコマンドで各モジュールのメンテナンス信号を切り替える事が出来ます。
 形式 **70110*# メンテナンスOFF(メインモジュールの場合)
 **70111*# メンテナンスON(メインモジュールの場合)
 入力例 **70111*#
 動作 **701XXでメンテナンスモードを切り替えます。コマンド設定後、電話機をオンフックして切断下さい。
 備考 但し、外付けメンテナンススイッチ設定の場合は機能しません。オンボードの時に有効です。

表9.2.1-1 リモートメンテナンスモード切替

モジュール	メンテナンスON	メンテナンスOFF
メインモジュール	70111	70110
マルチプレックス2	70121	70120
マルチプレックス3	70131	70130
マルチプレックス4	70141	70140

【**702np】DTMFコマンド リモートパラレル出力

任意

機能 DTMFコマンドで各モジュールの平行信号を出力する事が出来ます。

形式 **70211*# メインモジュール 平行信号1(LED7)
 **70221*# マルチプレックス2 平行信号1(LED7)

入力例 **70211*#

動作 **702XXで平行信号を出力します。

備考 予め設定ツールにてeControl-接点出力制御-DTMFコマンドを1-使用にする事で機能します。

出力LEDランプ	モジュール			
	メインモジュール	マルチプレックス2	マルチプレックス3	マルチプレックス4
出力1 (LED7) ROCSAA	7 0 2 1 1	7 0 2 2 1	7 0 2 3 1	7 0 2 4 1
出力2 (LED8) ROCSAA	7 0 2 1 2	7 0 2 2 2	7 0 2 3 2	7 0 2 4 2
出力3 (LED17) SAPI0	7 0 2 1 3	7 0 2 2 3	7 0 2 3 3	7 0 2 4 3
出力4 (LED18) SAPI0	7 0 2 1 4	7 0 2 2 4	7 0 2 3 4	7 0 2 4 4
出力5 (LED19) SAPI0	7 0 2 1 5	7 0 2 2 5	7 0 2 3 5	7 0 2 4 5
出力6 (LED20) SAPI0	7 0 2 1 6	7 0 2 2 6	7 0 2 3 6	7 0 2 4 6

【TaroID】現場名通知時期を設定した場合

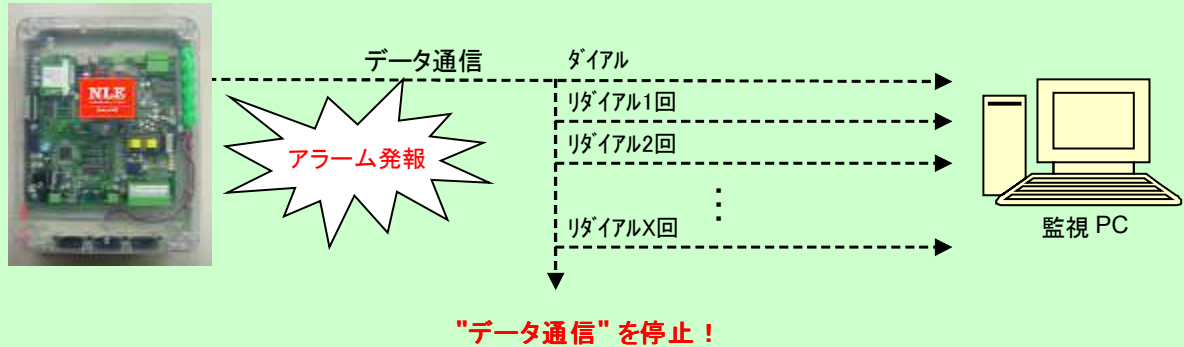
TaroID及び現場名通知時期を”3”に設定。現場名アナウンスを録音して設定した場合の再生内容は下記になります。(1号機の場合)

Taro_IDは、XXXX です。 1号機発報。 こちらは、『現場名アナウンス』です。

【リダイヤル制限機能】(端末側発報制限)

- 1) Sakura 6 Plusはデータ発報中止時間内にデータ発報が完了しなかった場合、自動的にデータ発報停止モードになります。データ発報停止モードを設定時点でセンターに対して「音声通知」を行います。
音声アナウンス内容 : 「データ発報異常が発生しました。データ発報を停止します。」

通常

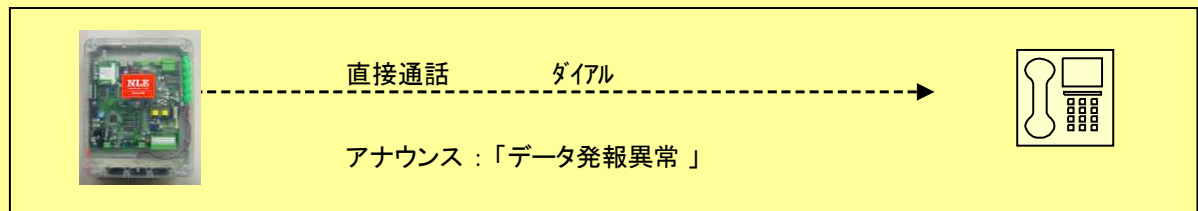


データ通信復旧

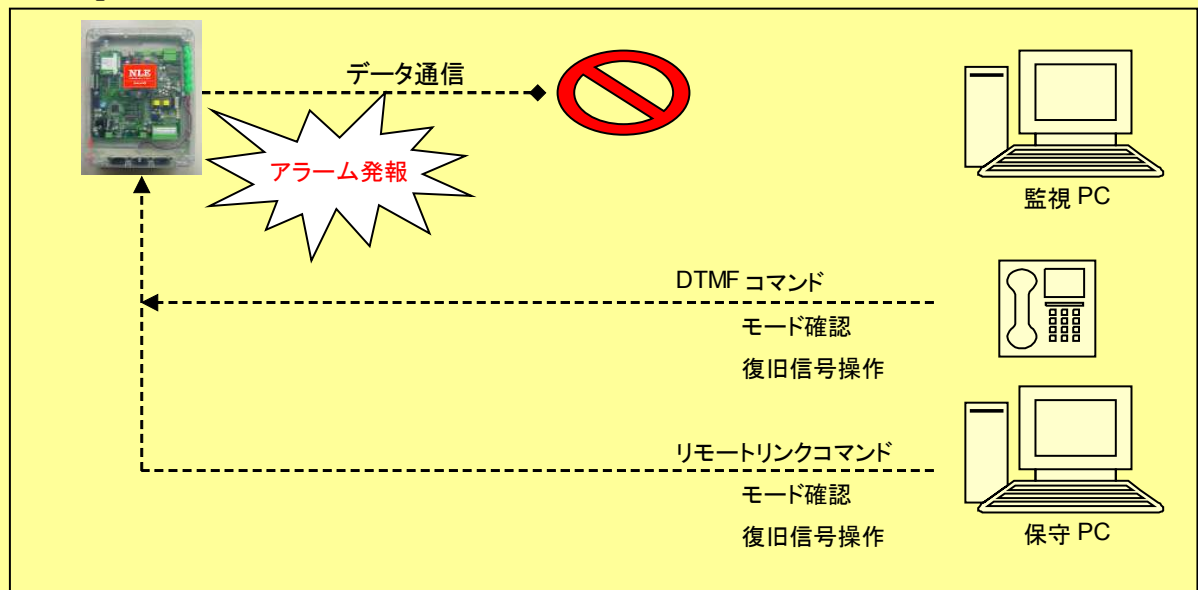
データ通信ストップ

データ発報停止中

【ステップ1】



【ステップ2】



『リダイヤル制限機能の概要』

- ① パラメータで指定された期間(Alarm cancel time)内にデータ発報が完了しない（リダイヤルを繰り返す）場合、以降の『データ発報停止モード』となり、データ発報を自動的に停止します。（設定値：発報開始 60分）
（設定ツールにて変更可能）
- ② マルチプレックスモジュール(従監視装置)が接続されたユニットの場合は、データ発報停止モードを検出し、NLE-BUS（通信バス）を通して各ユニットに対して「データ発報停止モード」になったことを通知します。
- ③ データ発報停止モードを設定された時点でセンターに対して「音声通知」を行います。
音声アナウンス内容：「データ発報異常が発生しました、データ発報を停止します。」

尚、通話時間超過かセンター側が切断するまでは任意のDTMFコマンドを受付けます。端末装置を特定する為にコマンド（＃＊）を操作すると現場名アナウンスが再生されます。

- ④ データ発報停止中は、データ発報イベントを無視することでデータ発報を抑止しています。
但し、下記の動作は別扱いとなります。
 - a. 全てのアラームの検出処理は動作します。
 - b. 保守開始・保守終了の検出処理は動作します。
 - c. システム通知(例：定時発報)の検出処理は動作します。
- ⑤ 非常ボタン押下時の直接通話機能（音声発報）は動作しますが、インターホンデータ発報は行いません。
- ⑥ 保守PCからのデータ着信は並びに、外部からの音声着信は可能です。
- ⑦ メインモジュール（主監視装置）の電源を入・切（再起動）した場合は、マルチプレックスモジュールも「データ発報停止モード」は解除されます。
- ⑧ マルチプレックスのみ電源を入・切（再起動）した場合は、「データ発報停止モード」は保持されます。
- ⑨ 次の操作を行いますと状態チェックもしくは、「データ発報停止モード」の設定/解除を設定する事が出来ます。

【**8703*#】リダイヤル制限機能モードチェック

任意

機能	DTMFコマンドにより現在の状態を音声で取得できます。	
形式	* * 8 7 0 3 * #	データ発報停止モードチェック
入力例	**8703*#	
動作	**8703XXでパラレル信号を出力します。	
備考	データ発報停止モードの場合、音声応答：「データ発報停止中です」 データ発報可能モードの場合、音声応答：「データ発報できます」	

【**7031*#/**7030*#】リダイヤル機能データ発報停止モードの設定/解除

任意

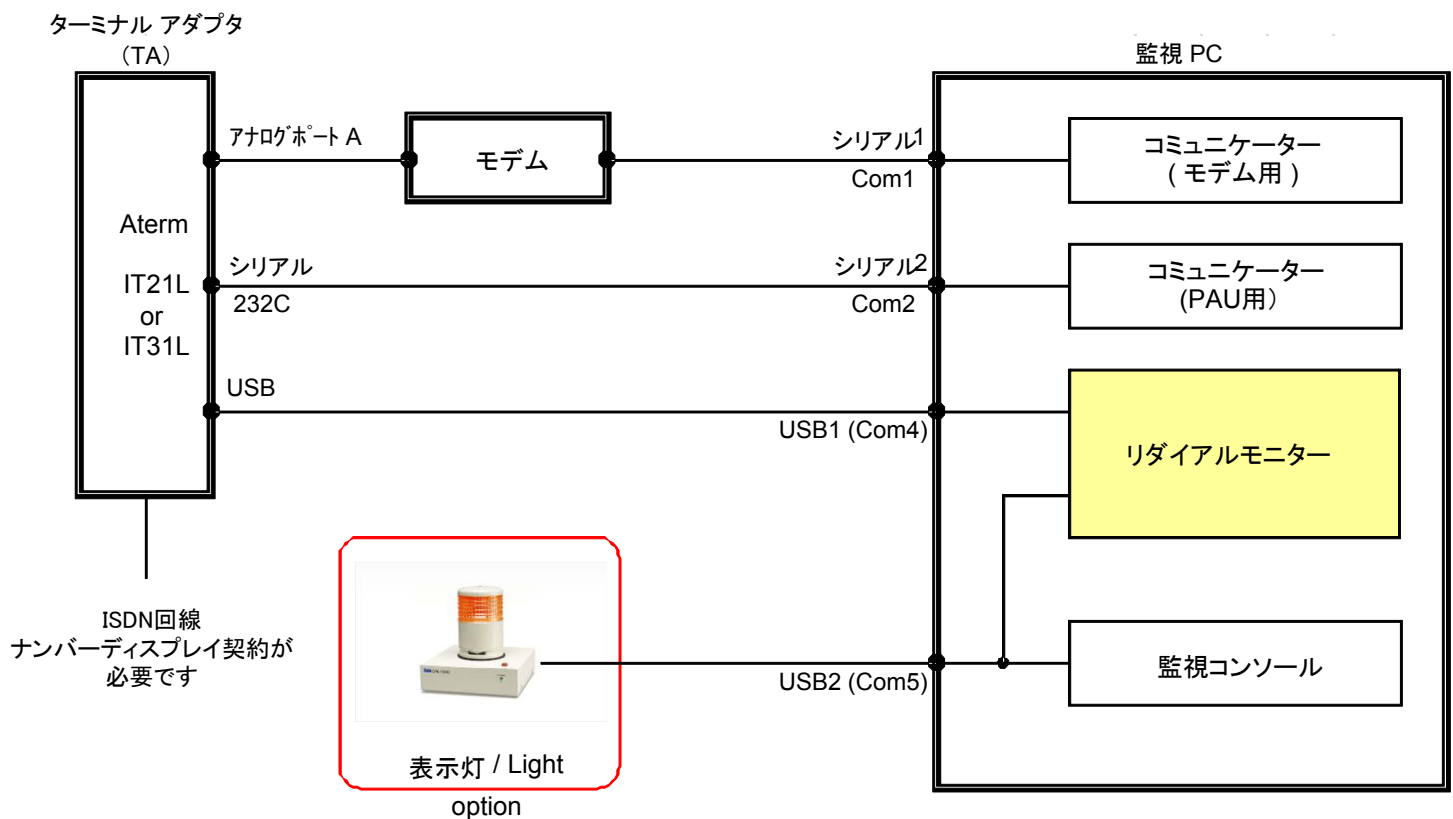
機能	DTMFコマンドで動作モードの設定と解除が可能です。	
形式	* * 7 0 3 1 * #	データ発報停止モードの設定
	* * 7 0 3 0 * #	データ発報停止モードの解除
入力例	**7031*# **7030*#	
動作	**703X*# 動作モードの設定を変更。	
備考	リアルタイムモニタで、データ発報停止モードの解除が可能	

【リダイヤルモニター機能の概要】(コールセンター側リダイヤルモニター) (表示灯: 有償オプション)

『動作概要』

リダイヤルを繰り返す遠隔監視端末をコールセンターPCで検知した場合、該当の遠隔監視端末からの着信を自動拒否します。ただし、インターフォンを使用した非常通話は着信拒否の対象外となります。

本機能はNEC Aterm IT21L/IT31L 固有のATコマンドを使用しています。(詳細説明書は、書類番号T 001 547 Jをご覧ください)



構成図

※1.お客様でご契約頂いた端末装置用電話回線のご利用環境により、リダイヤルを繰り返す事による通信料の多額請求を防ぐ機能です。是非ご検討下さいます様お願い致します。

※2.いかなる 場合 におきましても、ダイヤル利用料金の補填・保障等は致しかねます。
また、PHS付き端末の場合は電話回線開通時にセフティプランへの加入をお奨め致します。

※3.このソフトウェアはNTT ISDNナンバーディスプレイ契約が必要になります。

【保守PCより「リモートリンク」による遠隔操作】

保守PCを導入頂いているお客様は、以下の操作が行えます。

- 現在の状態を保守PC(リアルタイムモニタ)で取得できます。
- 拡張コマンドによりデータ発報停止モードを保守PC(リアルタイムモニタ)で解除できます。

10. インターホン信号真理値表

10. 1 6V単局 / 6V多局LEDランプ動作表示

インターホン接続が誤配線と気づかず、『① 発報しない』『② 発報するが会話が出来ない』『③ 片側通話になる』という症状になった時には、非常ボタンが押された時のインターホン信号表示ランプを参照して誤配線がないか？確認してください。

基板のLED配置図は54ページをご覧ください。

		6V単局				
		発報時			着信時	
LED番号	INT.記号	待 機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選 局
LED11	L	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
LED12	R	OFF	ON	ON	OFF	ON

		6V多局				
		発報時			着信時	
LED番号	INT.記号	待 機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選 局
LED11	L	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
LED12	R	OFF	ON	ON	OFF	ON
LED13	M1	OFF	ON	ON(1号機)	OFF	ON(1号機)
LED14	M2	OFF	OFF	ON(2号機)	OFF	ON(2号機)
LED15		OFF	ON(1号機)	ON(1号機)	OFF	ON(1号機)
LED16		OFF	ON(2号機)	ON(2号機)	OFF	ON(2号機)
LED17		OFF	ON(3号機)	ON(3号機)	OFF	ON(3号機)
LED18		OFF	ON(4号機)	ON(4号機)	OFF	ON(4号機)
LED19	M3	OFF	OFF	ON(3号機)	OFF	ON(3号機)
LED20	M4	OFF	OFF	ON(4号機)	OFF	ON(4号機)

10.2 24V単局 / 24V多局LEDランプ動作表示
基板のLED配置図は54ページをご覧ください。

		24V単局				
		発報時			着信時	
LED番号	INT.記号	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED15	1A	OFF	OFF	ON	OFF	ON
LED21	1B	OFF	ON	OFF	OFF	OFF

		24V多局				
		発報時			着信時	
LED番号	INT.記号	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED15	1A	OFF	OFF	ON(1号機)	OFF	ON(1号機)
LED16	2A	OFF	OFF	ON(2号機)	OFF	ON(2号機)
LED17	3A	OFF	OFF	ON(3号機)	OFF	ON(3号機)
LED18	4A	OFF	OFF	ON(4号機)	OFF	ON(4号機)
LED21	1B	OFF	ON(1号機)	OFF	OFF	OFF
LED22	2B	OFF	ON(2号機)	OFF	OFF	OFF
LED23	3B	OFF	ON(3号機)	OFF	OFF	OFF
LED24	4B	OFF	ON(4号機)	OFF	OFF	OFF

【付録 1】装置仕様

表 付録1-1 動作環境仕様

項目	仕様	
動作温度	0～+45℃	
保存温度	-20～+60℃（梱包状態で）	
動作湿度	30～80%	
保存湿度	5～95% 結露なきこと（保存は保管梱包状態であること）	
温度上昇	+15℃以下であること、ただし放熱器などは除く	
周囲雰囲気	腐食ガスがないこと、一般事務所程度	
漏洩電流	3.5mA以下	
絶縁抵抗	DC 500Vの試験電圧により3MΩ以上の絶縁抵抗であること。	
絶縁耐力	AC 1000Vの試験電圧により1分間耐えること。 または、AC 1200V試験電圧により1秒間耐えること。	
電圧変動	定格電圧±10%で誤動作しないこと。	*1
始動電圧	定格電圧の85%、115%での電源投入動作が正常に行なえること。	
瞬断	90%→0%→90%の瞬断で1サイクル継続しても正常に動作すること。	
突入電流	コールドスタートおよび、ホットスタート 42A以下、持続時間0.5秒以下	

*1 ACアダプターを使用した場合（DT6-**-B*）

表 付録1-2 一般仕様

項目	細項目	仕様	
電源	DC電源	DC9V±0.5V、MAX600mA	*1
	AC電源	AC100V±10% 100VA	
電池	種類	ニッケル水素電池 7.2V 1300mAh	*2
	充電方式	トリクル充電	
	停電補償時間	30分以上	
	交換時期	2-3年	
耐振動		JIS C 0911準拠	
耐衝撃		JIS C 0912準拠	
発生塵埃		なきこと	
外形		245（L）×195（D）×60（H） 突起物はふくまない	
重量			

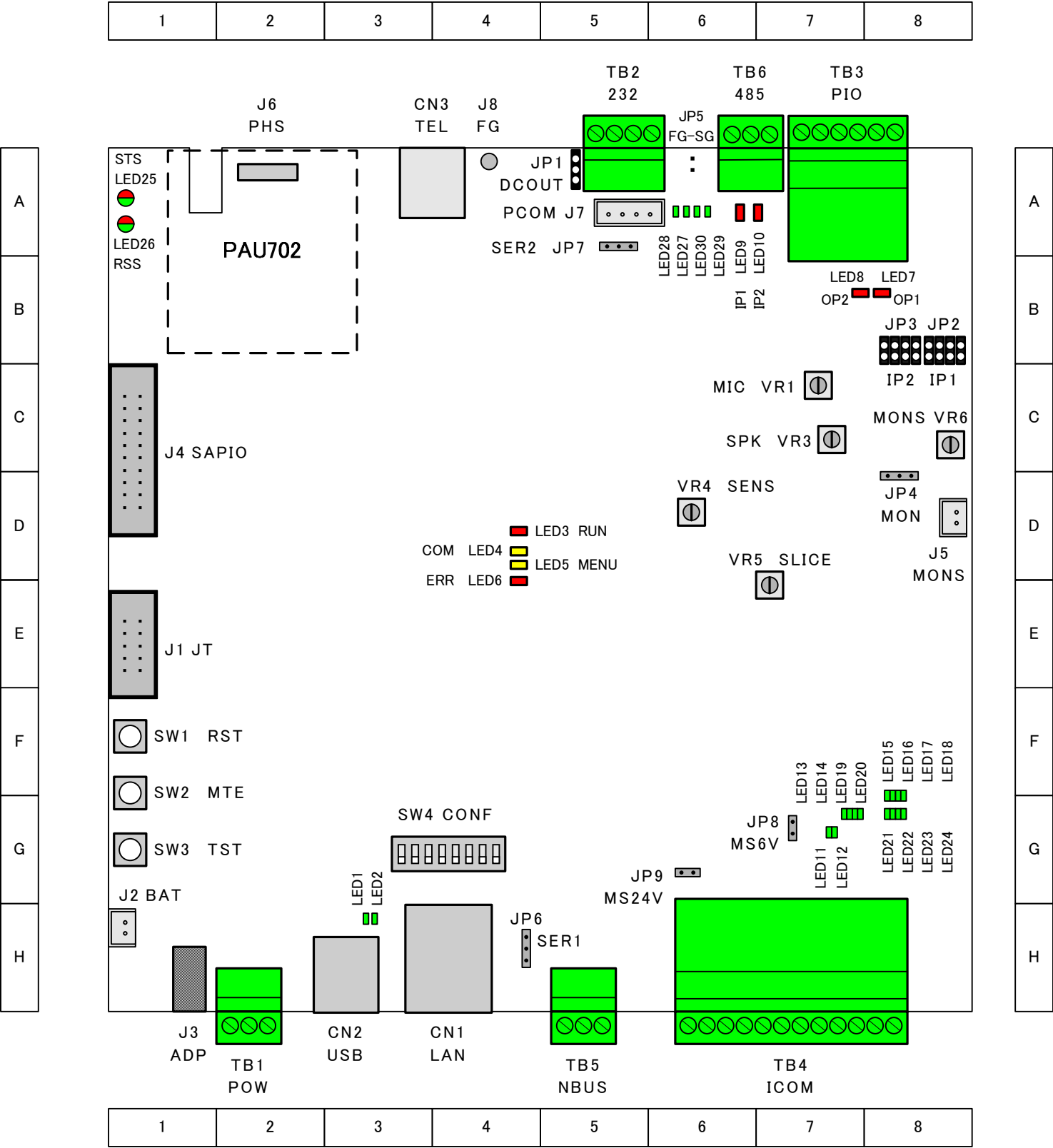
*1 客先DC9Vを使用した場合（DT6-**-N*）

*2 ACアダプターを使用した場合（DT6-**-B*）

表 付録1-3 通信仕様

通信モジュール	項目	仕様
NCU (Modem機能)	適用回線	NTT公衆回線
	接続コネクタ	RJ 11 (モジュラー6極2芯)
	選択信号	DP (10PPS/20PPS) PB
	直流抵抗	334Ω
	網制御機能	自動 (AA)
	自動発信・リダイヤル機能	有り
Modem	通信方式	V22bis準拠
	同期方式	非同期
	変調方式	QAM(2400bps)
	通信速度	2400bps
	送信レベル	-9dbm
	受信レベル	-9 dBm~-43 dBm
	不感動受信レベル	-45dBm
	技術基準適合番号	A08-0133004
PHS (PAU-702)	周波数帯	1884.65MHz~1919.45MHz
	通信方式	時分割多元接続方式を使用する時分割複信方式
	伝送速度	384kbit/s
	技術基準適合番号	A06-0213001, 001JXAA1138

【付録 2】 部品配置図



注意) 型番によっては実装されていない部品もあります。

図 付録2-1 部品配置図(ROCSAA2)

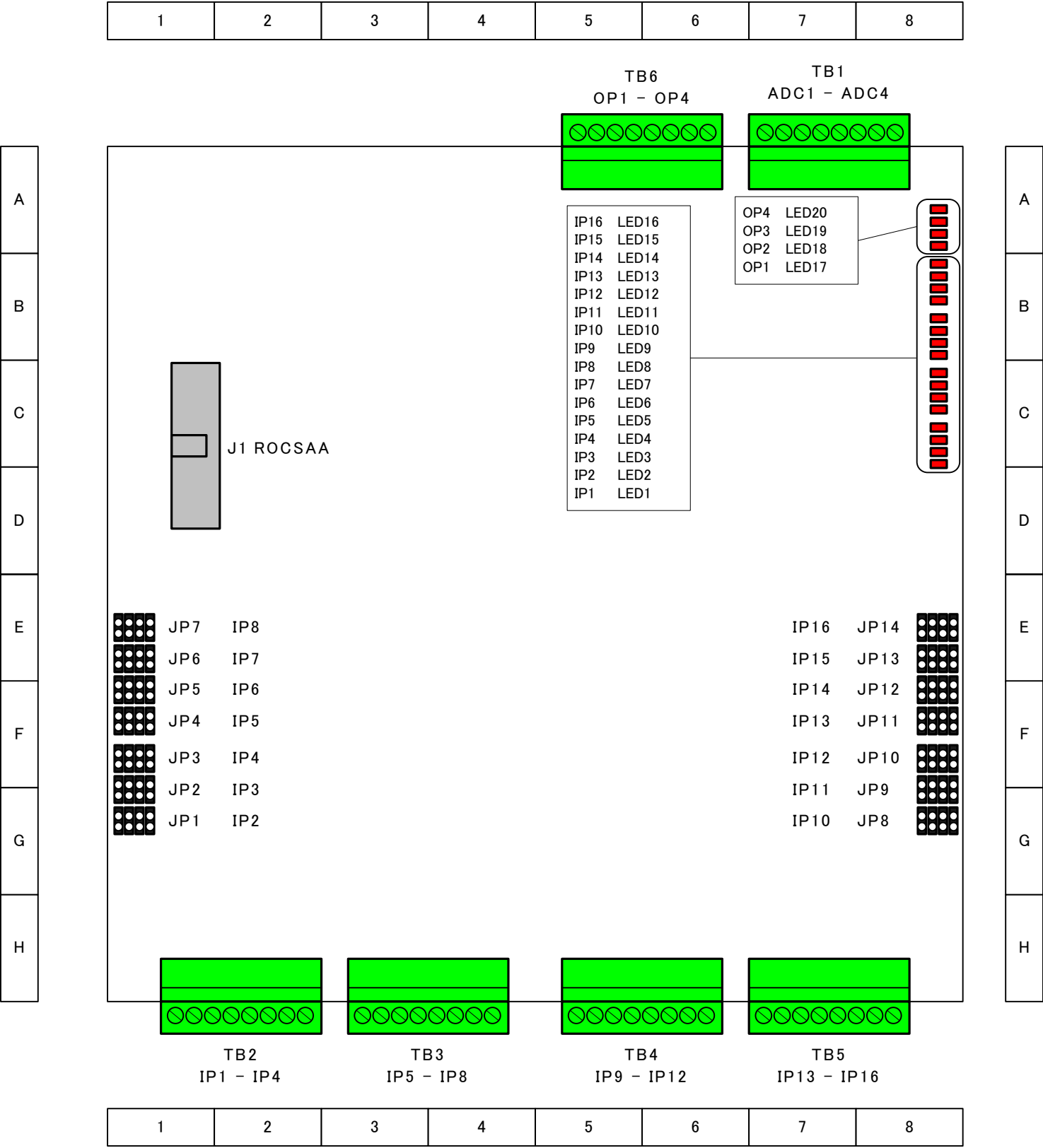


図 付録2-2 部品配置図(SAPIO2)

【付録 3】特記事項**1) 電源モジュール無しタイプ (DS6B-**-*N*)****a. 外部電源 (DC9V) 要求仕様**

- ・無停電保証電源であること。
- ・DC9V \pm 0.5V (電流容量100mA \sim 600mA)、リップルノイズ50mV以下、ピークノイズ無きこと。

2) NTT回線タイプ (DS6B-M-*)**

本装置の直流回路の抵抗値は334 Ω です。

線路抵抗条件によってはご使用できませんのでご注意ください。

3) 関連資料

T001 187J	NLE製品 取扱い説明書-安全のしおり
T001 291J	Sakura6 Plus 取扱い説明書-設定ツール編
T001 292J	Sakura6 Plus 取扱い説明書-取付け編 (本資料)
T001 294J	Sakura6 Plus 取扱い説明書-製品概要編
T001 346J	Sakura6 Plus with/Logic 利用者マニュアル ロジック定義方法 基礎編
T001 547J	リダイヤルモニター説明書